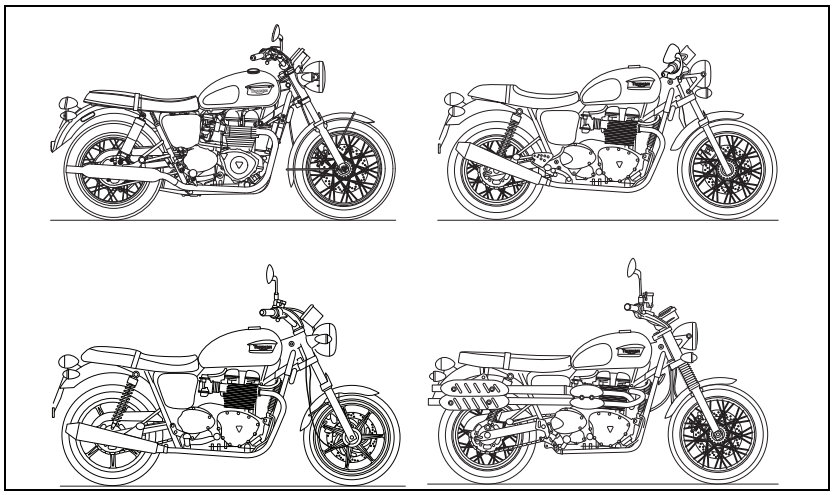
はじめに

本取扱説明書は、Triumph Bonneville、Bonneville SE、Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション、ならびに Thruxton、Scrambler について解説したものです。この取扱説明書は必ずモーターサイクルと一緒に保管してください。



警告・注意・注記

この取扱説明書の中で特に重要な情報は、以下のような形で示されています：

⚠ 警告

この警告記号は、内容が特に重要な指示や手順であることを示しており、適切に守られなかった場合は人身事故を引き起こす結果になりかねません。

⚠ 注意

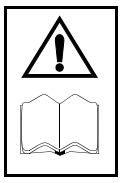
この注意記号は、内容が特に注意の必要な指示や手順であることを示しており、厳重な注意を怠ると、装備に損傷を与えたり、破壊する結果になりかねません。

注記：

- **この注記記号は、操作性や便利性に関して役に立つ情報を示します。**

はじめに

警告ラベル



モーターバイクには、左のようなシンボルマークの付いているところがあります。このシンボルマークは「注意：取扱説明書を参照してください」の意味で、このマークの下に関係のある事柄についての図解が載っています。

本取扱説明書の中の関連事項についての注意を参照しないで、モーターバイクを運転したり、調整を行なったりしてはなりません。

この記号のついたラベルの位置はすべて、*12* ページと *13* ページに記載されています。必要と思われる場合には、関連情報を記載したページにも同じ記号をつけてあります。

整備

お買い求めのモーターバイクを安全で故障のない状態で末永くお使い頂くために、整備は正規Triumphディーラーのみに実施してもらってください。

お買い上げのTriumphモーターバイクを適切に整備し維持するのに必要な知識、設備、技術を有するのは、正規Triumphディーラーだけです。

最寄りのTriumphディーラーの所在地を見つけるには、Triumph のウエブサイト www.triumph.co.uk で探すか、貴国の正規ディストリビューターにお電話ください。ディーラー等の住所は、本取扱説明書に付随しているサービスレコードブックに記載されています。

騒音防止システム

騒音防止システムの改造は禁じられています。

下記の項目は法律で禁止されている可能性があります：

a) 最終的な購入者への販売または引渡し前や使用中において、整備、修理、交換以外の目的で、新車に組み込まれている騒音防止用の装置や設計要素を、誰であろうと取り外したり、作動不能にしてはならず、

b) 装置やデザインを改造した車両は、理由の如何を問わず、撤去するか操作不能にします。

取扱説明書

このたびはTriumphモーターバイクをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。本モーターバイクは、Triumph 社の実証済みのエンジニアリングと徹底的なテスト、そして、優れた信頼性、安全性、高性能を追求してやまない努力が結集されて生まれた製品です。

実際に走行を始める前に、この取扱説明書を読み、モーターバイクの操縦装置の正しい操作方法、特徴、能力、限界を熟知してください。

本書には、安全走行の秘訣が盛り込まれていますが、モーターバイクを安全に運転するのに必要なテクニックやスキルのすべてが網羅されてはいません。Triumph 社は、本モーターバイクの安全運転を保証するために、ライダーの皆様すべてにトレーニングを受けられるよう熱心にお勧めしています。

本取扱説明書は、以下の言語でも現地のディーラーから入手できます。

- イタリア語
- 英語
- オランダ語
- スウェーデン語
- スペイン語
- ドイツ語
- フランス語
- ブラジルポルトガル語。

⚠ 警告

この取扱説明書と、モーターバイクと共にお届けしているその他の解説書はすべて、お買い上げのモーターバイクの永久部品とお考え頂く必要があります。後になってお使いのモーターバイクを売却される時は、必ずバイクと共に譲渡してください。

ライダーの皆様には、走行前にこの取扱説明書とお買い上げのモーターバイクと共にお届けしたその他の解説書を読んで頂き、モーターバイクの操縦装置の正しい操作方法、特徴、能力、限界を余すところなく知って頂かなくてはなりません。

お持ちのモーターバイクをみだりに他人に貸さないでください。バイクの操縦装置、特徴、能力、限界を良く知らないで走行した場合、事故を引き起こす恐れがあるからです。

Triumph へのご意見

お客様に Triumph をご購入頂いた後も、当社はお客様との関わりを大切にしています。当社製品をご購入およびご使用頂いたお客様からのご意見やご感想は、当社の製品開発とサービス向上において欠かすことができないものです。是非、正規販売店にお客様のメールアドレスをご登録頂き、お客様の声をお聞かせください。ご登録頂いたメールアドレス宛てに、オンライン顧客満足度調査のご案内を送信させていただきます。ご意見・ご感想をお待ちしております。

Triumph チームより。

はじめに

情報

本刊行物に記載されている情報は、印刷時点で入手可能な最新情報を基にしています。Triumph 社は、予告なしに、いかなる義務を負うこともなく、いつでも内容を変更する権利を有します。

Triumph Motorcycles Limited の書面による許可なく、本書の全部または一部を複製することは禁じられています。

© Copyright 11.2011 Triumph Motorcycles Limited, Hinckley, Leicestershire, England。

出版部品番号 3856596 第 4 版

目次

本取扱説明書は、いくつかの章から成っています。下記の目次には、各章の最初のページのページ番号が記載されています。主要な章の最初のページには更に目次がついていますので、必要な項目を特定して探し出すのに役立ちます。

はじめに *1*

警告ラベル *12*

部品の名称 *14*

シリアル番号 *21*

一般情報 *23*

モーターバイクの運転 *45*

アクセサリー、積載条件、同乗者 *55*

整備と調整 *59*

保管 *111*

仕様 *113*

はじめに－安全第一

モーターバイク

⚠ 警告

このモーターバイクはオンロード専用に設計されています。オフロードでの使用には適しません。

オフロード走行をした場合、モーターバイクのコントロールが失われて人身事故に帰する恐れがあります。

⚠ 警告

本モーターバイクは、トレーラーの牽引やサイドカーの取り付けを意図して設計されていません。サイドカー及び / 又はトレーラーの取り付けは、操縦性を損なって事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

本モーターバイクは、ライダーを単独で、または（タンデムシートが装備されている場合は）ライダーとひとりの同乗者を一緒に運べる二輪車として使用するように設計されています。

ライダー、（ある場合は）同乗者、アクセサリー、荷物の重量合計が、最大車載限度の200 kgを超過してはなりません。

シングルシートのモーターサイクル Steve McQueen™ エディション

⚠ 警告

このモデルは、ライダーだけを乗せる一人乗り用二輪車として設計されています。このモデルで二人乗りをすることは危険であり、制御不能となって事故を招く恐れがあります。

燃料と排気ガス

⚠ 警告

ガソリンは非常に可燃性の高い物質です：

給油の際は必ずエンジンを止めてください。

喫煙中、あるいは付近に火気のある所で給油したり、フューエルフィラーキャップを開けたりしないでください。

給油中に、エンジンや排気管、サイレンサーの上にガソリンをこぼさないように注意してください。

ガソリンを飲み込んだり、吸い込んだり、目に入れてしまった時は、即座に医師の手当てを受けてください。

皮膚にこぼれた場合はすぐに石鹸と水で洗い落とさなくてはなりません。ガソリンで汚れた衣服は、即座に脱ぐ必要があります。

ガソリンに触れると、皮膚に火傷その他の深刻な損傷を与える結果になりかねません。

⚠ 警告

閉め切った場所でエンジンを始動させたり、短時間でもエンジンをかけっぱなしにしないでください。排気ガスは有毒なので、短時間の内に意識が失われて死に至る恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

ライディング

⚠ 警告

疲労時、飲酒後あるいは眠気を催すような薬を服用した時は、バイクを運転してはなりません。

アルコール、その他の薬剤の影響を受けている状態で運転するのは違法です。

疲労時、あるいはアルコールや他の薬剤の影響下にある状態で乗車すると、ライダーのモーターバイクを制御し続ける能力が減じ、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ライダーはバイクの運転免許証を取得していなければなりません。免許なしでモーターバイクを運転するのは違法であり、起訴につながる可能性があります。

免許取得に必要な運転テクニックについて、正規のトレーニングを受けずにモータバイクを運転することは危険であり、モータバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあります。

⚠ 警告

常に安全を心がけながら運転し、この「はじめに」の章の別のところに記載されている防具類を身につけてください。事故に出逢っても、バイクの場合は自動車のように衝撃緩和装置で守られているわけではないことを常に念頭に置いてください。

⚠ 警告

本 Triumph モーターバイクは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなくてはなりません。

高速でモーターバイクを運転すると、スピードが増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間が激減するため、危険な状況に陥る可能性があります。

悪天候や交通混雑といった、危険な走行状態に陥りやすい状況下では、必ず減速するようにしてください。

⚠ 警告

常に路面の状態、交通状況、風の状態の変化に注意し、適切に対応してください。二輪車は、事故を引き起こしかねない外的要因に常に左右されます。それらの外的要因には以下のようなものがあります：

- 通過する車両からの横風
- 道路にできた穴、デコボコ道、崩れている道
- 悪天候
- ライダーのミス。

操縦特性および操作特性に慣れるまでは、交通量の多い道を避けて、常に節度のあるスピードでモーターバイクを運転してください。絶対に法定制限速度を超えてはなりません。

ヘルメットと防護服

⚠ 警告

モータバイクに乗る時、ライダーと同乗者は、バイク用のヘルメット、防護メガネ、グローブ、(膝と足首まわりがフィットする）ズボン、明るい色のジャケットを必ず着用してください。派手な色の衣服は、ライダー（または同乗者）を目立たせ、道路上の他の車の運転者達の注意を引くことができるため、より安全です。適切な防護服の着用は、完璧な防護は不可能であるものの、走行中に負傷する危険を低減することができます。

⚠ 警告

頭をケガから守ってれくれることから、ヘルメットはライディング装備の中で最も大切なものです。ライダー、同乗者とも、頭にぴったりフィットする、かぶり心地の良いヘルメットを慎重に選ばなくてはなりません。鮮やかな色のヘルメットは、ライダー（または同乗者）を目立たせ、通行中の車の運転者達の注意を引くため、より安全です。

事故の際、オープンフェースヘルメットでも防護効果はありますが、フルフェース型の方が効果は上がるでしょう。

より良い視界を得、目を保護するために、常にバイザーや認定ゴーグルを着用してください。

cbma

ハンドルとフットレスト

⚠ 警告

ライダーは、いつも両手でハンドルを握りながらバイクをコントロールし続けなくてはなりません。

ハンドルから手を放すと、モーターバイクの制御と安定性が著しく損なわれ、コントロールを失って事故を引き起こす危険があります。

⚠ 警告

警告：モーターバイクを運転している時は、ライダーおよび同乗者は、必ず装備されているフットレストを使用してください。

フットレストを使用することにより、ライダー、同乗者ともに、モーターバイクの部品にうっかり接触する危険や、衣服の一部が巻き込まれて負傷する危険を軽減することができます。

駐車

⚠ 警告

モーターバイクから離れる時は、必ずエンジンを止め、イグニッションキーを抜いてください。キーを抜き取ることにより、資格のない人や訓練を受けていない人がバイクを使用するリスクを低減することができます。

モーターバイクを駐車させる時は、必ず以下の点にご注意ください：

モーターバイクのスタンドが上がって転倒するのを防ぐため、ギヤをファーストに入れます。

走行後、エンジンと排気装置は高温になっています。歩行者、動物、子供がモーターバイクに触れる可能性のある場所には駐車しないでください。

柔らかい地面や、急斜面には駐車しないでください。このような状態の場所に駐車すると、モーターバイクの転倒につながりかねません。

詳しくは、この取扱説明書の「モーターバイクの運転」の章を参照してください。

部品とアクセサリー

⚠ 警告

オーナーの皆様にご承知頂きたいのは、Triumphモーターバイク用として承認している部品、アクセサリー、改造」とは、Triumph 社が正式に承認した部品やアクセサリーを使用し、取付作業は正規ディーラーが行なうことを指していることです。

特に、電装品や燃料システムを取り外したり、あるいは電装品や燃料システムに取り付けなければならない、部品やアクセサリーの取り付けや取り替えは極めて危険です。そのような改造は、安全上の問題を引き起こす恐れがあります。

承認されていない部品やアクセサリーの取り付けや改造は、操縦性、安定性、その他のモーターバイク操作面で悪影響を及ぼし、人身事故を引き起こす結果になりかねません。

承認されていない部品やアクセサリーの取り付けや改造、承認されている部品やアクセサリーの取り付けであっても、改造を認可されていない者が行なったために起きた故障に対して、Triumph 社は一切責任を負いません。

整備 / 装備

⚠ 警告

本Triumphモーターバイクの正しい操縦や安全な操縦に関して不審な点がある時は、いつでも正規 Triumph ディーラーに相談してください。

正しく機能していなモーターバイクを操縦し続けると、故障をいっそう悪化させ、安全性をも損なう恐れがあることを、念頭に置いてください。

⚠ 警告

警告:限界以上に磨耗したバンク角度インジケータの付いた、つまり前側ラジアスティップが 10 mm 以上磨耗しているモーターバイクを使用すると、モーターバイクが危険な角度でバンクすることになります。

ギアチエンジ・ロッドやブレーキ・ペダル・プッシュロッドのセッテイングを絶対に変えないでください。これらを変えると、バンク角度に悪影響を与える可能性があります。

危険な角度でバンクすると不安定な状態を引き起こし、コントロールが失われて人身事故を起こす恐れがあります。

⚠ 警告

必ず、法律で規定された機器のすべてが装備され、正しく機能しているようにしてください。

モーターバイクのライト、サイレンサー、排気系統、騒音防止システムを取り外したり、改造したりすることは、違法となる場合もあります。

不適当なあるいは不法な改造を行なうと、操縦性、安定性、その他のモーターバイク操作面で影響を及ぼし、人身事故を引き起こす結果になりかねません。

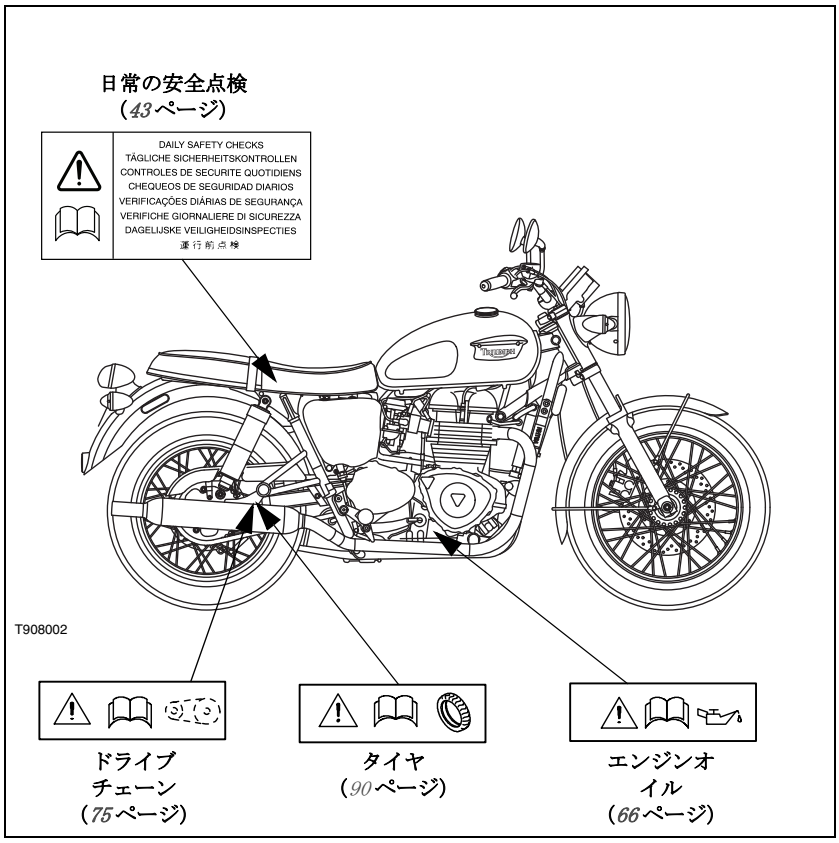
⚠ 警告

モーターバイクが事故に巻き込まれたり、衝突や転倒を起こした場合は、必ず正規 Triumph ディーラーで点検、修理を受けてください。どのような事故であってもモーターバイクに損傷を与えている可能性があり、適切に修理されなければ、人身事故に帰することもあり得る、第二の事故につながる恐れがあります。

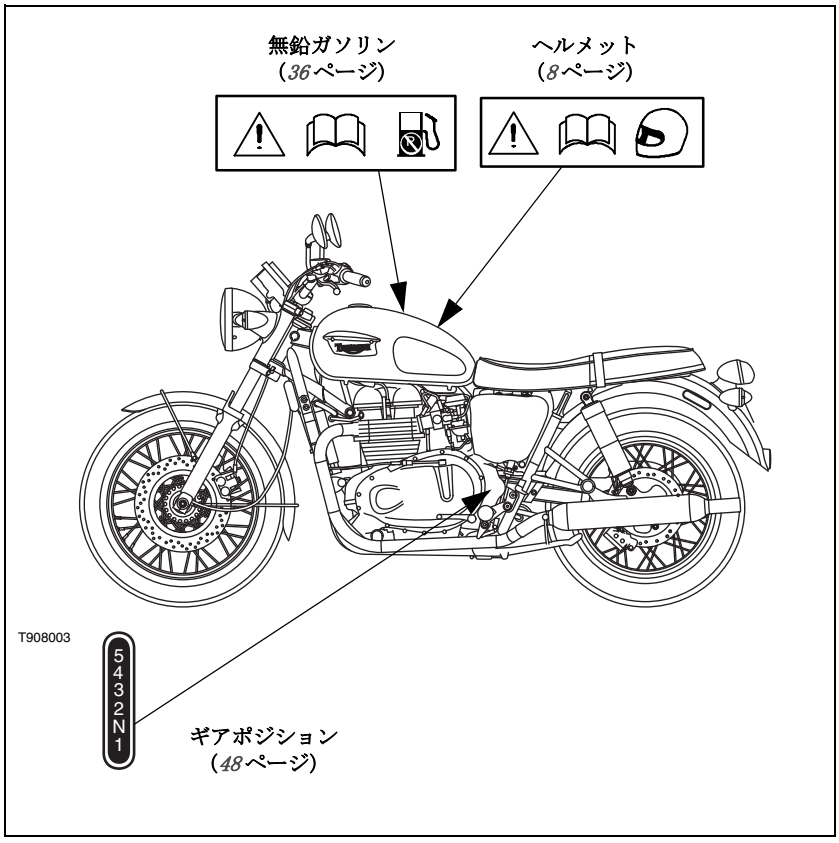
警告ラベル

警告ラベルの位置

このページと次のページに詳述されているラベルは、本取扱説明書に記載されている重要な安全情報に注意を促してもらうためのものです。運転前に必ずラベルを良く読み、ラベルに記載されている内容を理解し、ラベルの内容に従うようにしてください。

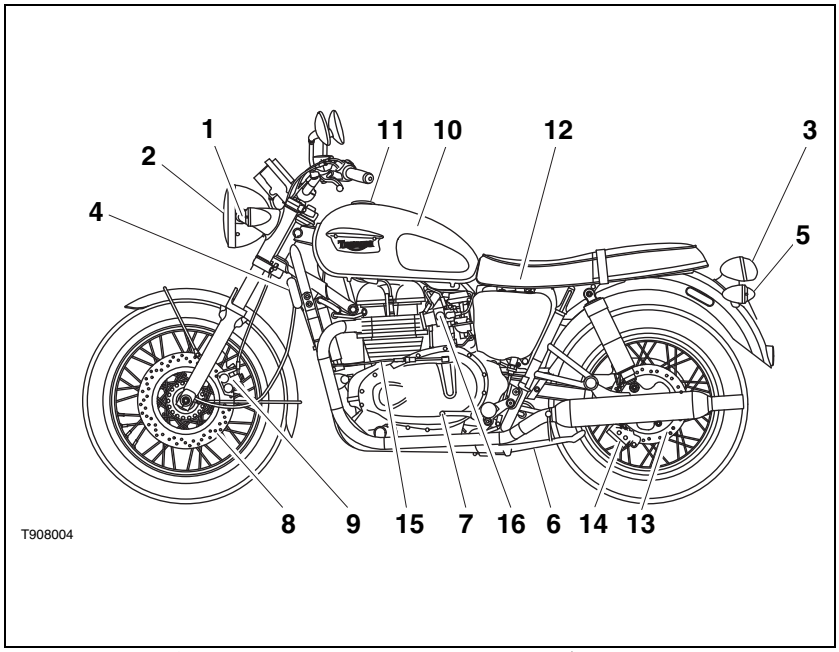


警告ラベルの位置（続き）



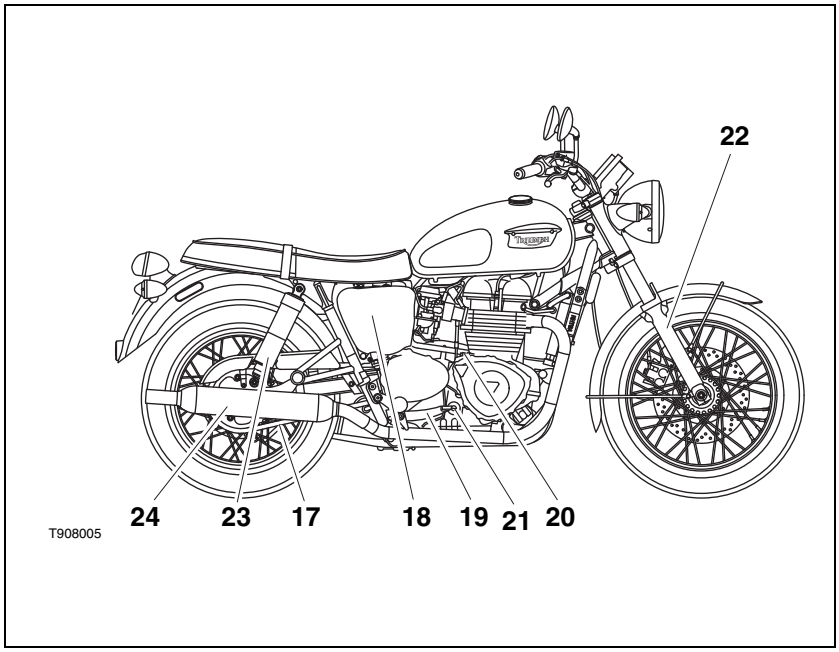
部品の名称

部品の名称 - Bonneville、Bonneville SE、Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション（図は Bonneville T100）



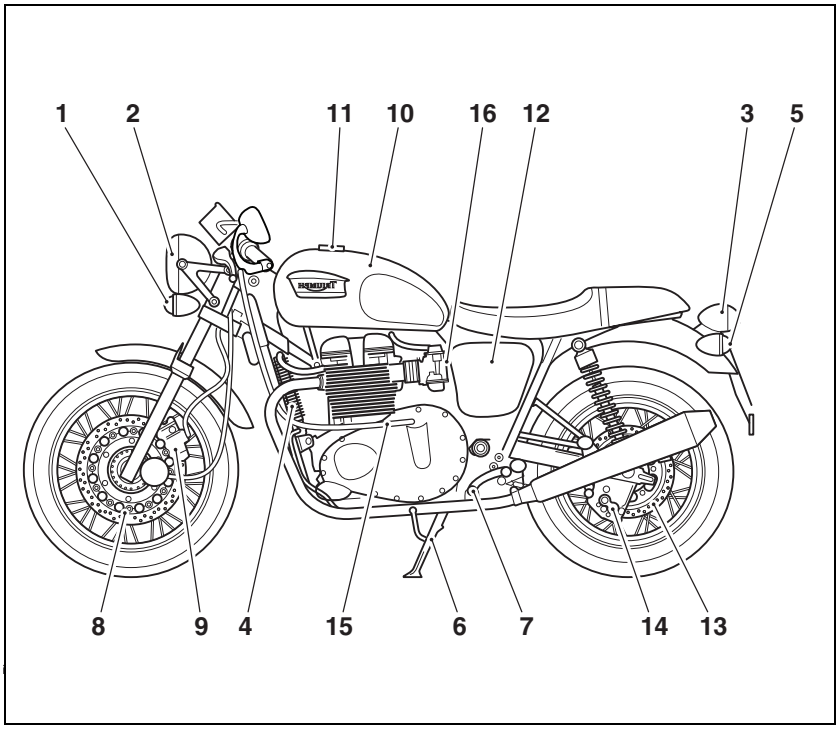
1. フロントインジケーター
2. ヘッドライト
3. リアライト
4. オイルクーラー
5. リアインジケーター
6. サイドスタンド
7. ギアチェンジペダル
8. フロントブレーキディスク
9. フロントブレーキキャリパー
10. 燃料タンク
11. フューエルフィラーキャップ
12. バッテリー
13. リアブレーキディスク
14. リアブレーキキャリパー
15. クラッチケーブル
16. チョークコントロール

部品の名称 - Bonneville、Bonneville SE、Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション（続き）



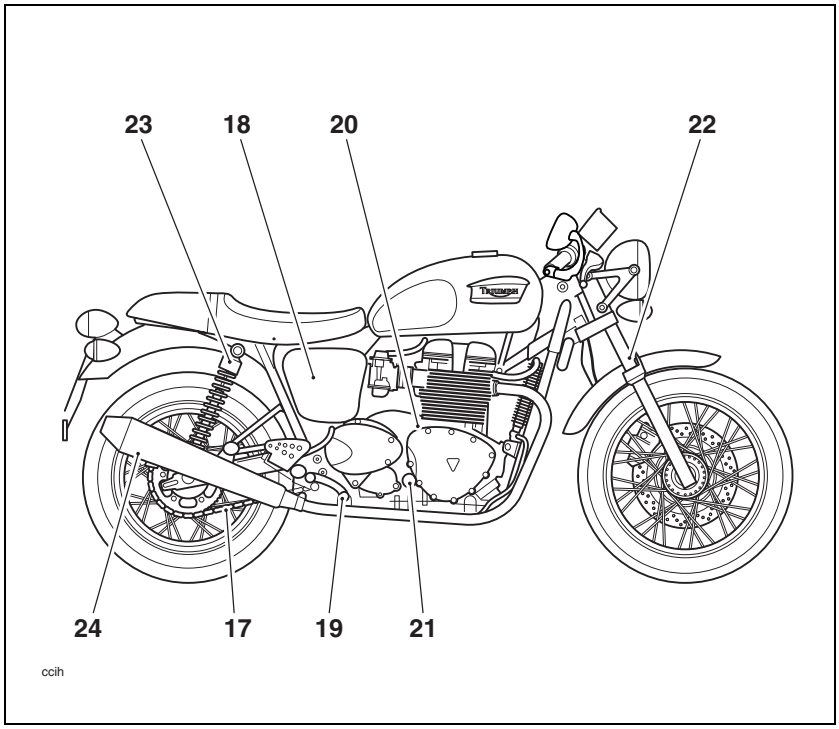
17. ドライブチェーン
18. リアブレーキフルードリザーバ
19. リアブレーキペダル
20. オイルフィラープラグ
21. オイルレベルサイトグラス
22. フロントフォーク
23. リアサスペンションユニット
24. サイレンサー

部品の名称 - Thruxton



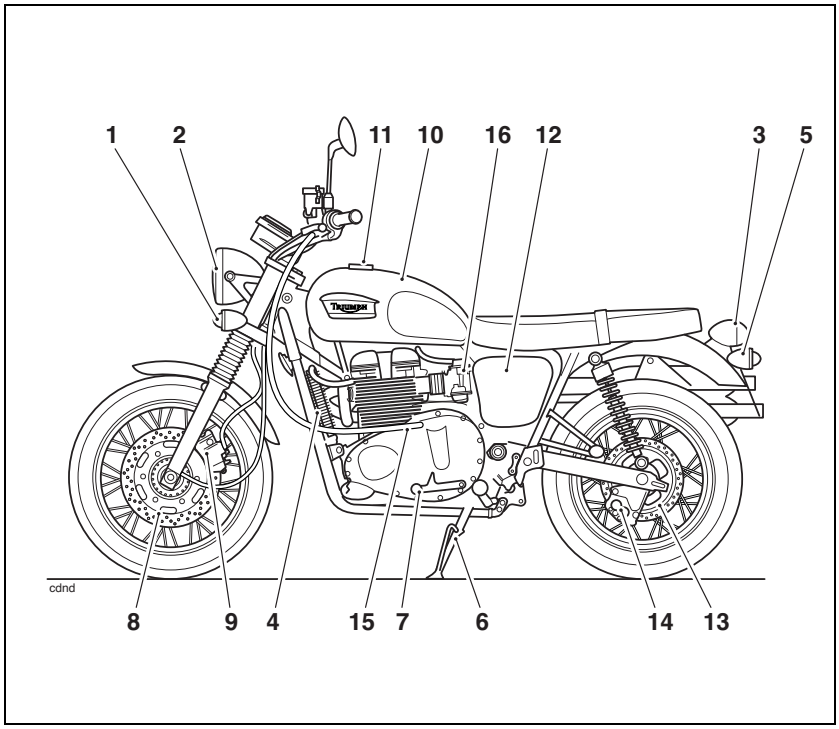
1. フロントインジケーター
2. ヘッドライト
3. リアライト
4. オイルクーラー
5. リアインジケーター
6. サイドスタンド
7. ギアチェンジペダル
8. フロントブレーキディスク
9. フロントブレーキキャリパー
10. 燃料タンク
11. フューエルフィラーキャップ
12. バッテリー
13. リアブレーキディスク
14. リアブレーキキャリパー
15. クラッチケーブル
16. チョークコントロール

各部の名称－ Thruxton（続き）



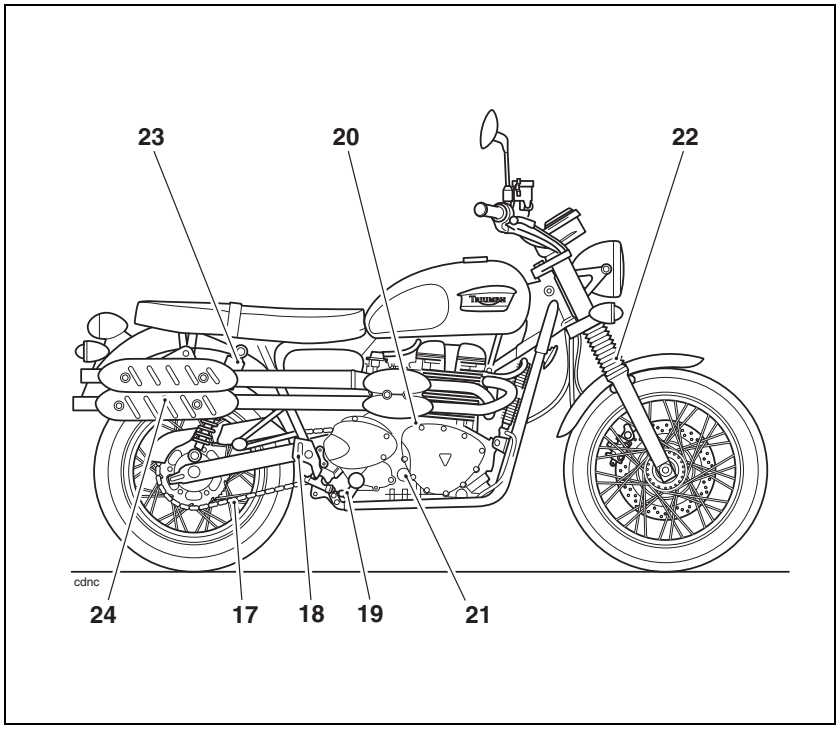
17. ドライブチェーン
18. リアブレーキフルードリザーバ
19. リアブレーキペダル
20. オイルフィラープラグ
21. オイルレベルサイトグラス
22. フロントフォーク
23. リアサスペンションユニット
24. サイレンサー

部品の名称 - Scrambler



1. フロントインジケーター
2. ヘッドライト
3. リアライト
4. オイルクーラー
5. リアインジケーター
6. サイドスタンド
7. ギアチェンジペダル
8. フロントブレーキディスク
9. フロントブレーキキャリパー
10. 燃料タンク
11. フューエルフィラーキャップ
12. バッテリー
13. リアブレーキディスク
14. リアブレーキキャリパー
15. クラッチケーブル
16. チョークコントロール

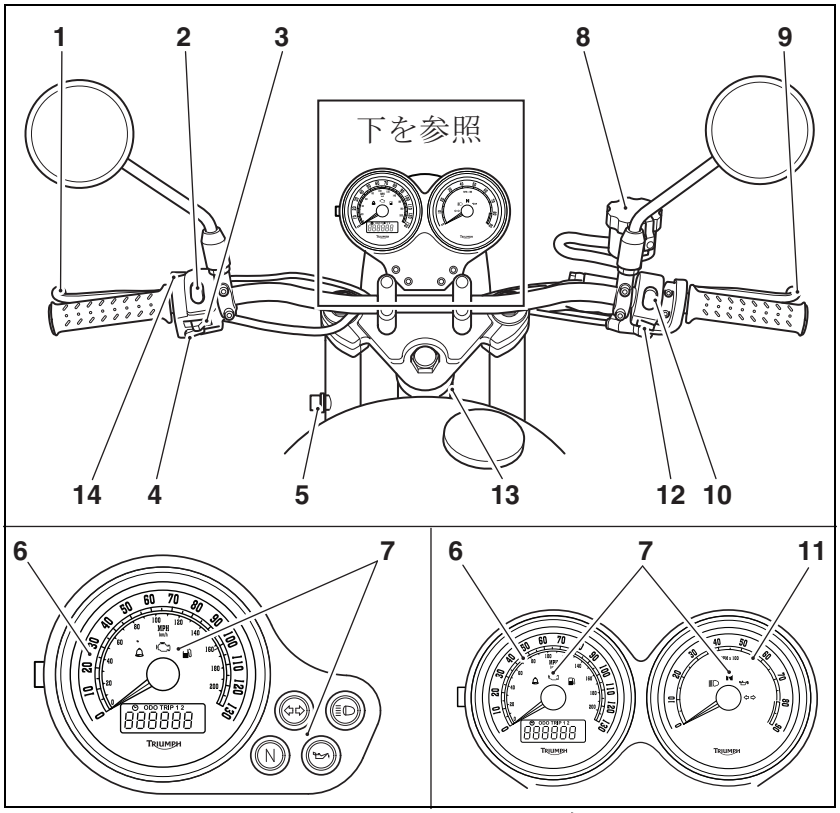
各部の名称－ Scrambler（続き）



17. ドライブチェーン
18. リアブレーキフルードリザーバ
19. リアブレーキペダル
20. オイルフィラープラグ
21. オイルレベルサイトグラス
22. フロントフォーク
23. リアサスペンションユニット
24. サイレンサー

部品の名称

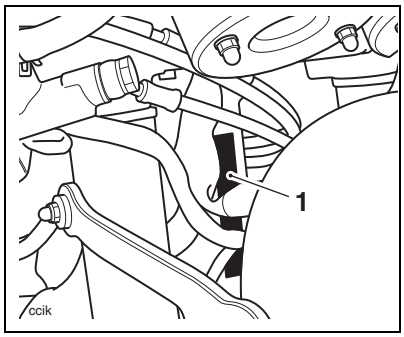
部品の識別 – 全モデル



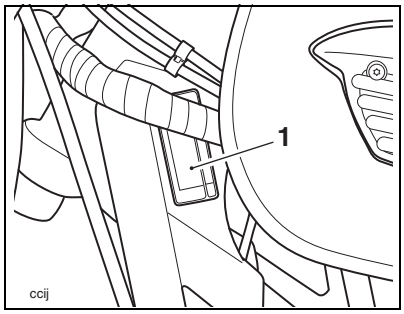
1. クラッチレバー
2. ヘッドライトディップスイッチ
3. 方向指示器スイッチ
4. ホーンボタン
5. イグニッションスイッチ
6. スピードメーター
7. 警告灯
8. フロントブレーキフルードリザーバ
9. フロントブレーキレバー
10. エンジンストップスイッチ
11. タコメーター（装着されている場合）
12. スターターボタン
13. ステアリングロック
14. パッシングスイッチ（Thruxton および Scrambler のみ）

シリアル番号

車体識別番号（VIN）



1. VIN ナンバーの刻印

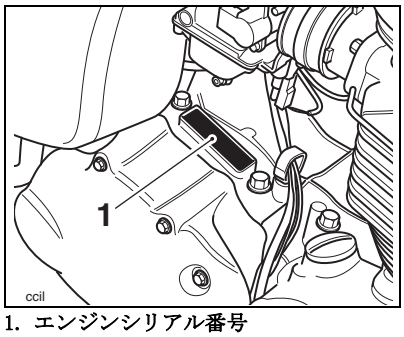


1. VIN プレートの位置

車体識別番号は、ステアリングヘッドに刻印されています。

また、モーターバイクの左側のステアリングヘッドのすぐ後ろにあるプレート（フレームにリベットで留めてある）に表示されています。

エンジンシリアル番号



1. エンジンシリアル番号

エンジンシリアルナンバーは、ドライブチェーンスプロケットカバーのすぐ上にあるクランクケースに刻印されています。

以下の空欄に車体識別番号を記入してください。

以下の空欄にエンジンシリアル番号を記入してください。

シリアル番号

このページは意図的に空白にしてあります

一般情報

目次

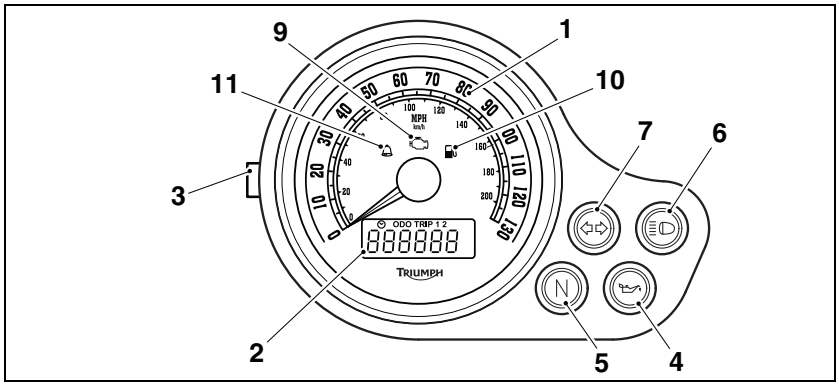
計器類 25
スピードメーター 26
オドメーター / トリップメーター 26
　トリップメーターのリセット 26
時計の調節 27
タコメータ（ある場合） 27
警告灯 28
　方向指示器 28
　ハイビーム 28
　ニュートラル 28
　エンジン管理誤作動インジケータランプ 28
　燃料低下 28
　油圧低下警告 29
イグニッションキー 29
イグニッションスイッチ 30
　スイッチの位置 30
　スイッチ操作 30
　イグニッションスイッチポジション 30
ステアリングロックキー 31
ステアリングロック 31
右ハンドルスイッチ 32
　エンジンストップスイッチ 32
　スターターボタン 33
左ハンドルスイッチ 33
　ヘッドライトディップスイッチ 33
　方向指示器スイッチ 33
　ホーンボタン 34
　パスボタン 34

一般情報

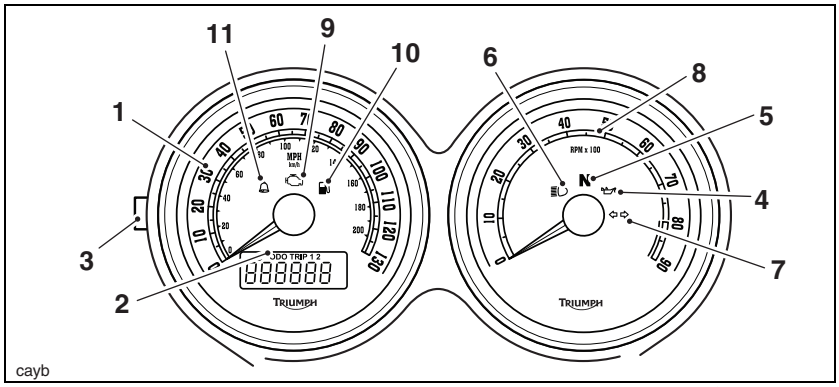
ブレーキとクラッチレバーアジャスタ 34
ヒートシールド（Thruxton のみ） 35
燃料 36
　燃料の等級 36
燃料補給 36
　フューエルタンクキャップ 37
　燃料タンクへの給油 37
サイドカバー（Scrambler を除く全モデル） 38
右側サイドカバー（Scrambler のみ） 39
左側サイドカバー（Scrambler のみ） 39
シート 40
　シートケア 40
スタンド 41
　サイドスタンド 41
取扱説明書 41
慣らし運転 42
安全運転 43
　日常の安全点検 43

計器類

Bonneville



Bonneville SE、Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション、ならびに Scrambler、Thruxton

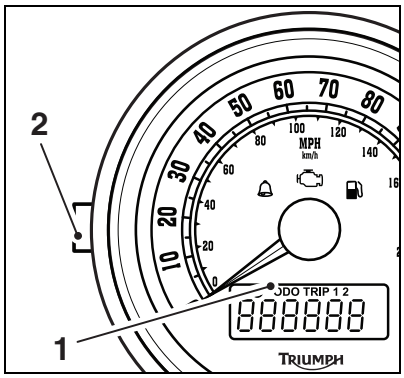


1. スピードメーター
2. オドメーター
3. リセットボタン
4. 油圧低下警告灯
5. ニュートラル表示灯
6. ハイビーム表示灯
7. 方向指示灯
8. タコメーターの位置（装着されている場合）
9. エンジン管理誤作動表示灯（ＭＩＬ）
10. 燃料レベル低下表示灯
11. アラーム状況表示灯（アラームは取付アクセサリー）

スピードメーター

スピードメーターは、モーターバイクの走行速度を表示します。

オドメーター / トリップメーター



1. オドメーター / トリップメーター / 時計
2. リセットボタン

オドメーターは、モーターバイクの走行距離の総計を表示します。

トリップメーターはふたつあります。いずれのトリップメーターも、表示部の数字（メーター）を最後にゼロにリセットした時点からのモーターバイクの走行距離を表示します。

⚠ 警告

モーターバイクの走行中にスイッチでオドメーターとトリップメーターの表示モードを切り替えたり、トリップメーターをリセットしたりしないでください。バイクを制御し損なって事故を引き起こす恐れがあるからです。

オドメーターとトリップメーターの表示モードを切り替えるには、所期の表示が出るまでリセットボタンを押し続けます。以下の順序で表示部が変わります。

- Odometer
  （オドメーター）
- Trip meter 1
  （トリップメーター 1）
- Trip meter 2
  （トリップメーター 2）
- 時計。

トリップメーターのリセット

一方のトリップメーターをリセットするには、そのリップメーターを選択して表示させ、リセットボタンを 2 秒間押してゼロにします。2 秒後、表示部のトリップメーターがゼロにリセットされます。

時計の調節

⚠ 警告

モータバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあるので、運転中に時計を調整しないでください。

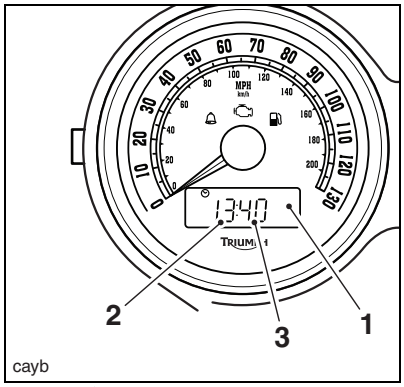
時計をリセットするには、イグニッションをオンにします。表示部に時計が表示されるまで、リセットボタンを押します。

4 秒間、リセットボタンを押し続けます。4 秒後、24 Hr または 12 Hr が点滅して表示されます。リセットボタンを押して、所期の時計ディスプレイを選択します。所期の表示が出たら、時間表示が点滅して表示されるまで、リセットボタンから指を放します。

時間表示をリセットするにあたり、時間表示が点滅していることを確かめます。リセットボタンを押して、設定を変更します。ボタンを 1 回押すごとに、設定がひとけたずつ変わります。ボタンを押したままにすると、画面の数字はひとつずつ増加し続けます。

現在の時間が表示されたら、6 秒間リセットボタンから指を放します。分表示が自動的に点滅し始めます。分は、時と同じやり方で合わせます。

「時」表示と「分」表示の両方が正しく設定されたら、リセットボタンから 6 秒間指を放しておきます。これで表示部の点滅が自動的に止まります。



1. 時計ディスプレイ
2. 時
3. 分

タコメータ（ある場合）

タコメーターは、エンジンの毎分回転速度を rpm（r/min）で表示します。タコメーターの計器面の右側は「レッドゾーン」です。毎分エンジン回転速度（r/min）がレッドゾーンにある時は、推奨エンジン速度の上限を超え、最高の性能を発揮するエンジン速度の範囲を超えています。

⚠ 注意

エンジンの rpm（毎分回転速度）がレッドゾーンに表示されるようなことは絶対に避けてください。エンジンに多大な損傷を与えかねません。

警告灯

方向指示器

方向指示器のスイッチが入っているとき、方向指示器の警告灯が同じテンポで点滅します。

ハイビーム

ハイビーム警告灯は、イグニッションスイッチがオン、ヘッドライトディプスイッチが「ハイビーム」にセットされている時に点灯します。

ニュートラル

ニュートラル警告ランプは、ギアがニュートラル（ギアが選択されていない）の状態であることを示します。イグニッションスイッチが ON の状態でギアをニュートラルにすると、ニュートラル警告灯が点灯します。

エンジン管理誤作動インジケータランプ

エンジン管理システムの誤作動表示灯は、イグニションスイッチをオンにした時に（それが機能していることを示すために）点灯しますが、エンジンがかかっている時に点灯することはありません。

エンジンがかかっている時に誤作動表示灯が点灯した場合は、エンジン管理システムによってコントロールされている、ひとつ又は複数のシステムに故障が生じたことを示しています。そのような状況になったとしても、エンジンがかからないほど深刻な故障でなければ、走行を続けられるようにエンジン管理システムがスイッチを「リンプ・ホーム」モードに切り替えます。

⚠ 警告

誤作動表示灯が点灯している時は、スピードを落とし、必要以上に長く乗り続けないでください。故障は、エンジン性能、排気物質、燃費に悪影響を及ぼす恐れがあります。エンジン性能の低下は、危険なライディングコンディションの原因となることがあり、バイクは制御不能になって事故を招く恐れがあります。できるだけ早く正規Triumphディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。

注記：

- **イグニッションスイッチをオンにした時に誤作動表示灯が点滅（点いたり、消えたりをくり返す）する場合は、できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、そのような状態を正常化してもらってください。このような状態の時、エンジンは始動しません。**

燃料低下

タンク内の残存燃料が約 3.5 リッターになると、燃料レベル低下表示灯が点灯します。

油圧低下警告

油圧低下警告灯は油圧が危険なレベルまで下がった時 、(またはイグニッションスイッチが ON の状態でエンジンが止まっている時)に点灯します。エンジンが回転中は油圧が充分にあれば、ランプはオフになっています。

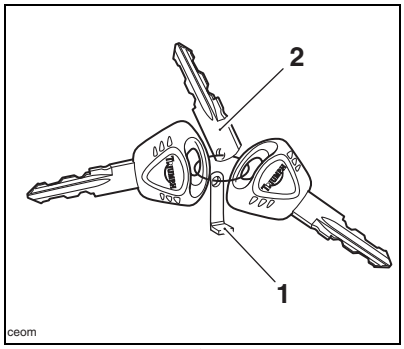
モーターバイクを始動させる際、イグニションを ON にするとランプが点灯し、エンジンが回転し始めるとすぐ消滅することを確認してください。

⚠ 注意

油圧低下警告灯が点いた場合は、ただちにエンジンを止めてください。不具合が直るまでは、エンジンを再始動しないでください。

油圧低下警告灯が点いている時にエンジンを回転させると、エンジンに多大な損傷を与える結果になることがあります。

イグニッションキー



1. **キーナンバータグ**
2. **スペアキーブレード**

イグニションキーはイグニションスイッチのみ作動します。別なキーがステアリングロックを作動します。

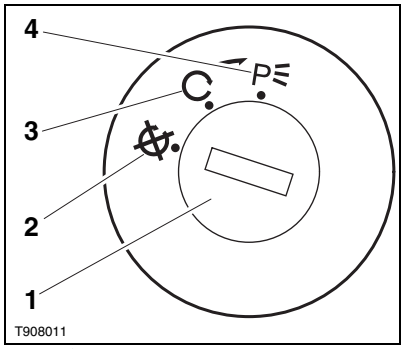
工場よりモーターバイクを出荷する際、イグニッションキー２個、キーナンバーの入った小タグ、Triumph アクセサリーアラーム用スペアキーブレードを同梱します。 キーナンバーを書き留め、スペアキー、キーブレード、キーナンバータグをモーターバイク以外の安全な場所に保管してください。

最寄りの正規 Triumph ディーラーは、キーナンバーのデータに基づいてカットした代替キーを供給したり、オリジナルをマスターキーに使って新しいキーをカットしたりできます。

⚠ 注意

スペアキーをモーターバイクと一緒に保管しないでください。安全確保のあらゆる面でマイナスです。

イグニッションスイッチ



1. イグニッションスイッチ
2. OFF ポジション
3. ON ポジション
4. PARK ポジション

スイッチの位置

イグニッションスイッチは、モーターバイク左側のヘッドライトサポートブラケットにあります。

スイッチ操作

これはキーで操作するスイッチで、３つのポジションがあります。キーは OFF または P (PARK) ポジションにある時のみ、スイッチから抜き取ることができます。

スイッチを OFF のから ON に切り換えるには、キーを差し込んで時計回りに回し ON ポジションにします。

スイッチを ON から PARK（駐車）に切り換えるには、キーバレルをもっと深くロックに押し込み、時計回りに回して PARK ポジションにします。PARK ポジションは、ポジションライトの点灯が義務付けられている状況で、一時的にバイクのそばを離れる時だけ使ってください。

キーを OFF の位置に戻すには、キーを反時計回りに回します。

イグニッションスイッチポジション

	エンジン オフ 全電装回路オフ
	エンジン オン 電装系統は全て使用可能
P	エンジン オフ テール、サイド、ライセンスプレートライトはオン、他の電装回路はオフ

⚠ 警告

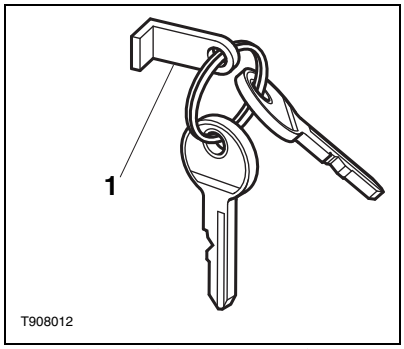
警備と安全のために、モーターバイクを残して置く場合には、必ずイグニションを OFF または PARK ポジションにし、キーを取り外してください。

許可なしでモーターバイクを使用すると、使用者、他の道路使用者、歩行者などの負傷の原因となる可能性があり、モーターバイクに損傷を与えることになりかねません。

注記：

- **イグニッションスイッチを長時間 P の状態にしたままにしないでください。バッテリーが上がる原因となるからです。**

ステアリングロックキー



1. ステアリングロックキータグ

ステアリングロックキーはステアリングロックの操作だけに使用します。イグニッションスイッチを操作するのは別のキーです。

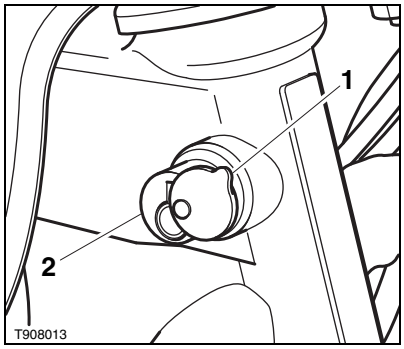
モーターバイクは出荷の際に、2つのステアリングロックキーとキー番号を記した小さなタグを一緒にお届けします。キーナンバーを書き留め、スペアキーとキーナンバータグをモーターバイクから離れた安全な場所に保管してください。

最寄りの正規 Triumph ディーラーは、キーナンバーのデータに基づいてカットした代替キーを供給したり、オリジナルをマスターキーに使って新しいキーをカットしたりできます。

⚠ 注意

スペアキーをモーターバイクと一緒に保管しないでください。安全確保のあらゆる面でマイナスです。

ステアリングロック



1. ステアリングロックカバー
2. ステアリングロック

このロックにはキーで作動する2つのポジションがあります。キーはロックを入れた状態、ロックを外した両状態で取り外すことができます。

ロックするには、キーを差し込んで反時計回りに回しながら、ロック全体を内側に押し込んでください。同時に、ロックがかかるまでハンドルを左に回しきってください（この点で、ロックは回転し内側に動きます）。

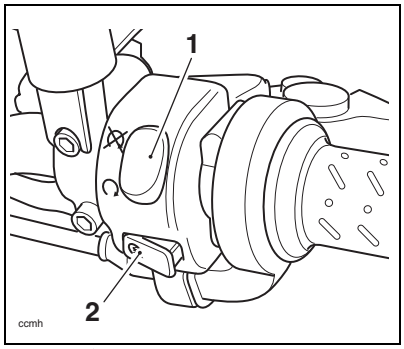
ステアリングロックを外すには、キーを差し込み、ロックにかかった重さを軽減するためにハンドルを少し回して、ロックが外側に飛び出すまでキーを更に反時計回りに回してください。キーを抜き取ります。

⚠ 警告

ステアリングロックは運転前に必ず外してください。ステアリングロックの入った状態で、ハンドルを回したり、モーターバイクを操縦することはできないからです。

モーターバイクをステアリング制御なしで運転すると、コントロールを失って事故を招くことがあります。

右ハンドルスイッチ



1. エンジンストップスイッチ（Scrambler の場合）
2. スターターボタン

エンジンストップスイッチ

モーターバイクを運転するには、イグニションスイッチを ON にして、エンジンストップスイッチを RUN ポジションにする必要があります。

エンジンストップスイッチは非常時に使います。エンジンを停止しなければならないような非常事態が発生した場合、エンジンストップスイッチを STOP ポジションに回してください。

注記：

- **エンジンストップスイッチは、エンジンを停止しますが、電装回路全てを遮断するわけではありません。普段は、エンジンンを止めるのにイグニッションスイッチを使ってください。**

⚠ 注意

エンジンがかかっている時以外は、イグニッションスイッチを ON にしたままにしないでください。電装系統とバッテリーに損傷を与える恐れがあるからです。

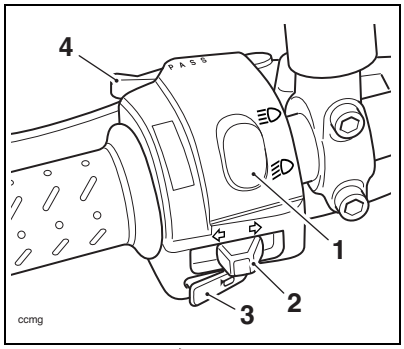
スターターボタン

スターターボタンは電動スターターを作動させます。スターターを作動させるには、クラッチレバーを握ってください。

注記：

- **クラッチレバーを握っても、サイドスタンドが下りていてギアが入っていれば、スターターは作動しません。**
- **ライトスイッチは、Triumph のどのモデルにも付いていません。その代わり、ヘッドライトとテールライトはイグニッションスイッチが ON になった時、自動的にスイッチが入ります。**

左ハンドルスイッチ



1. **ヘッドライトディップスイッチ**
2. **方向指示器スイッチ**
3. **ホーンボタン**
4. **パッシングボタン（装着されている場合）**

ヘッドライトディップスイッチ

ヘッドライトディップスイッチを使ってハイビーム、ロービームの切り換えができます。ハイビームにする時は、スイッチを前方に押します。ロービームにする時は、スイッチを手前に押します。ハイビームになっていると、ハイビーム警告灯が点灯します。

方向指示器スイッチ

方向インジケータースイッチを左右いずれかに押して放すと、インジケータが点滅します。インジケータを切るには、スイッチの真ん中のボタンを押してから放してください。

ホーンボタン

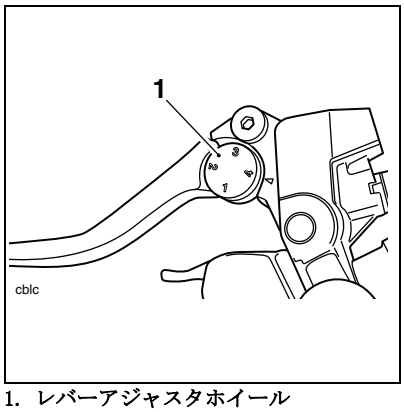
イグニッションスイッチがONになっている状態で、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

PASS

パスボタン

パスボタンを押すと、ヘッドライトメインビームのスイッチが入ります。パスボタンを押している間は、ヘッドライトのスイッチは入ったままで、ボタンを放すと途端に消えます。

ブレーキとクラッチレバーアジャスタ



1. レバーアジャスタホイール

フロントブレーキとクラッチレバーにアジャスターが取り付けられています(Bonneville T100およびThruxton以外の全モデル)。このアジャスタを使うと、ハンドルバーからレバーまでの間隔を、操縦者の手の大きさに合わせて4段階に変えることができます。

レバーを調整するには、レバーを前方に押してアジャスタホイールを回し、レバーピボット上の三角マークを番号のひとつに合わせます(上は4の位置に合わせたところ)。

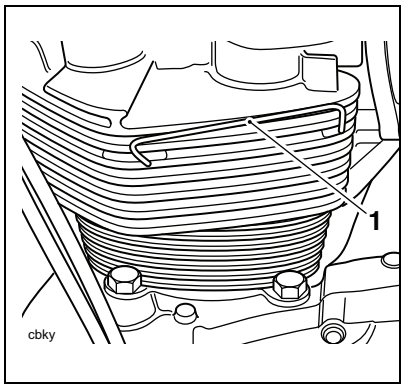
ハンドグリップと、放した状態のレバーの間隔は、4番に合わせた時に最も短くなり、1番に合わせた時に最も長くなります。

⚠ 警告

モーターバイクが走行中にレバーの調整を行なわないでください。コントロールが失われ、事故を招く恐れがあります。

レバーを調整した後は、交通のない場所でバイクを運転し、新しいレバー設定になじんでください。モーターバイクは他人に貸したりしないでください。あなたの手になじんだレバー設定を他人に変えられる恐れがあり、そのためにバイクのコントロールが失われて事故を引き起こす可能性があります。

ヒートシールド（Thruxton のみ）



1. ヒートシールド

モーターバイクの両側にあるシリンダーヘッドには、ヒートシールドが付いています。このシールドは、エンジンが回転している時や停止後しばらくの間熱くなっているシリンダーヘッドに、ライダーの膝が接することのないよう保護する目的で装備されています。

⚠ 警告

ヒートシールドは絶対にシリンダーヘッドから取り外さないでください。ヒートシールドが損傷を受けたり外れたりした場合は、必ず修理または交換を行なってください。

いずれのヒートシールドでも取り外してしまうと、ライダーの脚部が高温のエンジン部に触れる恐れがあります。高温のエンジン部に触れると、火傷を負ったり皮膚を傷めたりしかねません。

燃料

cbny

燃料の等級

お買い上げのTriumphのエンジンは無鉛燃料を使うように設計されており、正しい等級の燃料を使った時に最高の性能を発揮します。常にオクタン価 91 RON 以上の無鉛燃料を使用してください。

⚠ 注意

多くの国々で、これらのモデルの排気装置に、排気ガスの排出量低減に役立つ触媒作用コンバーターが取り付けられています。モーターバイクが、燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態になると、この触媒作用コンバーターに永久的な損傷を与える恐れがあります。ツーリングに十分な量の燃料を入れるようにしてください。

⚠ 注意

国や州、地域によっては、有鉛ガソリンの使用は違法とされています。有鉛ガソリンを使うと、触媒作用コンバーターに損傷を与えることがあります。

燃料補給

⚠ 警告

燃料の取り扱いと関連づけられる危険要素を低減するために、必ず以下の安全上の指示に従ってください：

ガソリン（燃料）は高可燃性で、一定の状況下では爆発する可能性があります。燃料補給の際はイグニッションスイッチを OFF にしてください。

禁煙厳守。

携帯電話は使用しないでください。

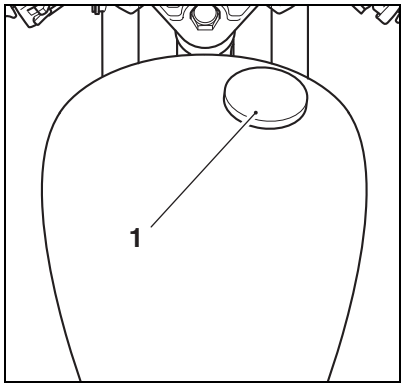
給油場所は換気が良く、火炎や火花の元となる物がないことを確認してください。これにはパイロットランプのついた器具も含まれます。

絶対に燃料レベルがフィラーネックの中まで上がる程満タンにしないでください。太陽熱やその他の熱源からの放射熱で燃料が膨張してあふれ出し、火災を引き起こす恐れがあります。

給油後は、必ず、フューエルフィラーキャップが適切に閉められているか点検してください。

ガソリン（燃料）は高可燃性のため、燃料漏れやこぼれがあったり、前述の安全上の注意が守られなかったりすると、所有物に損傷を与えたり、人身事故のもととなる火災を引き起こしかねません。

フューエルタンクキャップ



1. フューエルタンクキャップ

燃料タンクキャップを開けるには、キャップを反時計回りに回し、フィラーネックから取り外します。

キャップを閉めるには、キャップをタンクフィラーネックに合わせ、フィラーネックが密閉されるまでキャップを時計回りに回します。完全に締めきった時点でラチェット装置が働き、キャップの外側の部分だけが内部とは無関係に空まわりしてキャップの締め過ぎを防ぎます。

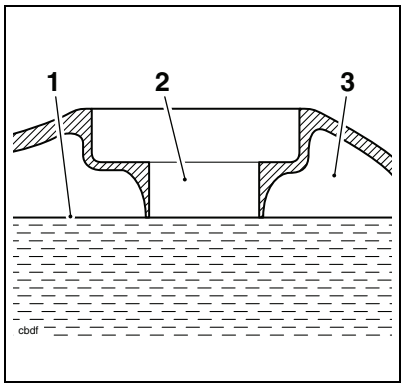
燃料タンクへの給油

雨天時やほこりっぽい状態の時は、給油を避けてください。大気中の異物が燃料を汚染する恐れがあります。

⚠ 注意

汚染した燃料は、燃料系統のコンポーネントに損傷を与えかねません。

燃料タンクへの給油は、流失を防ぐためにゆっくり行なってください。燃料レベルがフィラーネックの最下部に到達するまで給油しないでください。これは、エンジンからの放射熱や直射日光の熱でタンク内の燃料が膨張しても、膨張を許容できる空間が十分残っているようにするためです。



1. フューエルレベル
2. フィラーネック
3. 空隙

給油後は、必ず、フューエルフィラーキャップが適切に閉められ、ロックされているか点検してください。

⚠ 警告

タンクをいっぱいにすると、燃料の流出を招く恐れがあります。

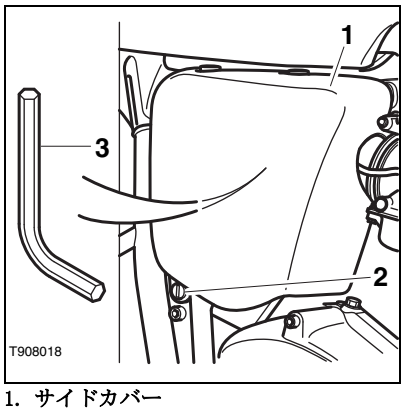
ガソリン（燃料）をこぼした場合は、すぐ完全に拭き取り、使った布は安全な方法で処分してください。

エンジン、排気管、タイヤ、その他モーターバイクのどの部分であろうと、ガソリン（燃料）をこぼさないよう注意してください。

ガソリン（燃料）は高可燃性のため、燃料漏れやこぼれがあったり、前述の安全上の注意が守られなかったりすると、所有物に損傷を与えたり、人身事故のもととなる火災を引き起こしかねません。

タイヤの近くあるいはタイヤの上にガソリン（燃料）をこぼすと、タイヤの路面グリップ力が落ちることがあります。これは、モーターバイクの制御性を低下させ、事故の原因となる危険な走行状態を生じさせることがあります。

サイドカバー（Scrambler を除く全モデル）



1. サイドカバー
2. 締め具
3. シートリムーバルツール

右側のサイドカバーを取り外すと、ヒューズボックス、シートリムーバルツール、リアブレーキ液などにアクセスできます。

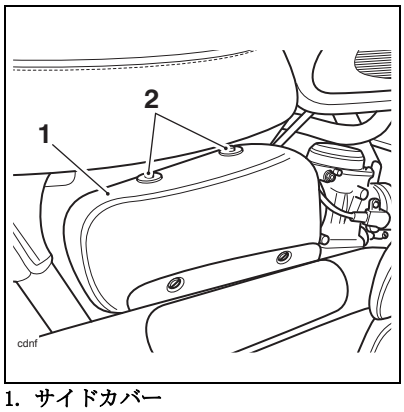
サイドカバーを取り外すには、コインを使ってカバーに通してあるファスナを外してください。

保持金具ピンが取れるまでカバーを持ち上げ、モーターバイクから取り外してください。

カバーを戻すには、カバーを配置ピンの上にあわせ、ファスナを通してコインで締めてください。

最後にカバーを掴んで、完全に保持されていることを確認してください。

右側サイドカバー (Scrambler のみ)



1. サイドカバー
2. 保持金具ピン／グロメット

ヒューズボックスの作業をする際、右側サイドカバーを取り外します。

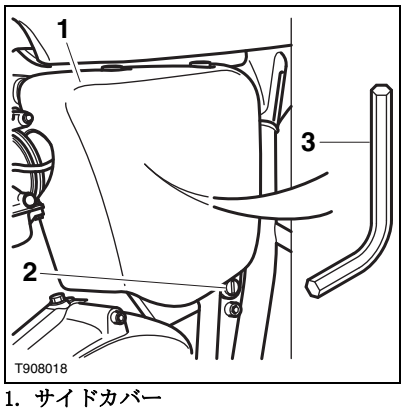
サイドカバーを取り外す場合、保持金具ピンが外れるまでモーターバイクのカバー上部を引っ張り（グロメットはそのままにします）、次にカバーを持ち上げて外してください。

再取付する際、下側の位置決めピンを入れ、上部グロメットにカバーをしっかり押して取り付けてください。

カバーを上下の位置決めピンに正確に入れたかどうか確認してください。

最後にカバーを掴んで、完全に保持されていることを確認してください。

左側サイドカバー (Scrambler のみ)



1. サイドカバー
2. 締め具
3. シートリムーバルツール

シートリムーバルツールの作業をする際、左側サイドカバーを取り外します。

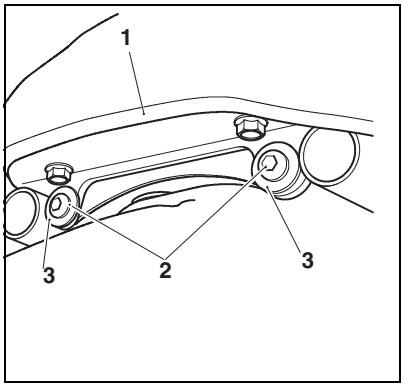
サイドカバーを取り外すには、コインを使ってカバーに通してあるファスナを外してください。

保持金具ピンがはなれるまでカバーを持ち上げ、モーターバイクから取り外してください。

カバーを戻すには、カバーを配置ピンの上にあわせ、ファスナを通してコインで締めてください。

最後にカバーを掴んで、完全に保持されていることを確認してください。

シート



1. シート
2. 固定具
3. 段つきスリーブ

バッテリーを点検したり、取扱説明書を取り出したりするときのために、シートを取り外すことができます。シートの締め具を取り外すための六角棒スパナは、Bonneville、Bonneville SE、Bonneville T100 および Thruxton では右側のサイドパネルの下に、Scrambler では左側のサイドパネルの下に収納されています。

六角棒スパナを見つけるには、このセクションですでに説明した手順にしたがって右側のサイドカバー(Scrambler では左側のサイドカバー) を取り外します。Scrambler を除くすべてのモデルでは、六角棒スパナがヒューズボックスの下のリテーナーに取り付けられています。Scrambler では、一番後ろ側の 2 つのリレーの間にあるリテーナーに六角棒スパナが取り付けられています。

シートの後部から固定具を取り外して段付きスリーブを取り、シートを持ち上げてフレームから完全に外します。

シートケア

シートやシートカバーを傷つけないように、シートを落としたり、シートやシートカバーを傷つけそうな面に立てかけたりしないでください。

⚠ 注意

シートやシートカバーを傷つけないようにするため、シートを落とさないでください。シートやシートカバーをモーターバイクに立てかけたり、傷つけそうな面に立てかけないでください。シートは、シートカバーを上向けにして、柔らかい布でカバーしたきれいで平らな面においてください。

シートカバーを傷つけたり、染みをつくったりする可能性のあるものをシートの上においてはなりません。

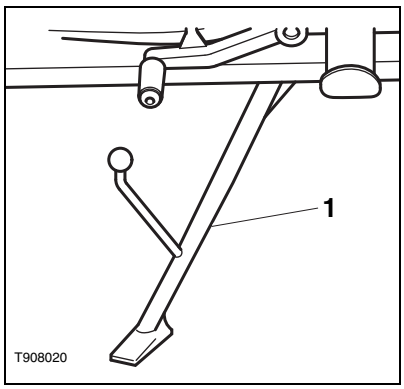
再装着するには、位置決め凸縁がフュエルタンクブリッジの真下に正しく置かれていることを確認して、シートをフレームに位置づけます。

最後に、段付きスリーブを再装着し、シートの留めネジを締め付けます。

アレンキーを専用のスペースに収納し、左右のサイドカバーを再装備します。

スタンド

サイドスタンド



1. サイドスタンド

本モーターバイクにはサイドスタンドが装備されており、バイクを斜めにして駐車できます。

サイドスタンドを使用した時は例外なく、ライディング前に、モーターバイクに乗ったらまずスタンドが完全に引き上げられていることを確認してください。

安全な駐車の仕方に関する解説はモーターバイクの運転」の章を参照してください。

⚠ 警告

本モーターバイクには、サイドスタンドが降りた状態で走行するのを防ぐために、インターロックシステムが取り付けられています。

絶対に、サイドスタンドが降りた状態で走行したり、インターロック装置の機能を妨害したりしないでください。モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすといった、危険な走行状態を引き起こすことがあるからです。

注記：

- **サイドスタンドを使用する時は、必ずハンドルを左に回し切り、バイクをファーストギアに入れたままにしておいてください。**

取扱説明書

モーターバイクの取扱説明書は、リアマドガードとシートの間の空間に保管されています。

取扱説明書はシートを取り外してアクセスできます。

慣らし運転

「慣らし運転」とは、新車をスタートしてから最初の数時間起こなう運転をいいます。

特に、コンポーネントが新しい時は、エンジンの内部摩擦は大きくなります。その後エンジンを使い続けることにより、コンポーネントが「ベッドイン」され、この内部摩擦は著しく低減されます。

慣らし運転期間中は慎重にすることによって、排ガス量を低減させ、最高の性能発揮、燃料節約、エンジンその他、モーターバイクの構成部品の耐用年数延長を実現します。

最初の 800 km：

- フルスロットルにしないでください。
- 常にエンジン速度を高速に保つことは避けてください。
- 高速、低速にかかわらず、長時間一定のスピードで走行することは避けてください。
- 荒っぽい始動、急停止、急激な加速は、非常時以外は避けてください。
- 最高速度の 4 分の 3 を超えるスピードで走行しないでください。

800 から 1500 km まで：

- エンジン速度に関して、短時間ならレブリミットまで徐々に上げることができます。

慣らし運転期間中と期間終了後の両方：

- エンジンが冷えている時は回転速度を上げ過ぎないこと。
- エンジンに負担をかけないこと。必ず、エンジンが「苦闘」し始める前に低速ギヤに切り換えてください。
- 不必要にエンジン速度を上げて走行しないこと。ギアをチェンジアップすることは、燃料消費量や騒音の低減、環境保護に役立ちます。

安全運転

日常の安全点検

毎日、走行する前に以下の項目を点検してください。点検により運転が安全で確実なものになり、点検時間も最小限ですみます。

点検を実施中に異常が見つかった場合は、モーターバイクを安全な作動状態に戻すのに必要な処置を講ずるため、「整備と調整」の章を参照するか最寄りの正規Triumphディーラーに相談してください。

⚠ 警告

毎日の走行前に以下の点検を怠ったり、モーターバイクを以下の故障のまま作動すると、モーターバイクに大きな損傷を与えたり、コントロールを失ったり、事故を招く恐れがあります。

点検：

燃料： タンクに十分あるか、燃料漏れはないか（*37*ページ）。

エンジンオイル： サイトグラス上のレベルは適切か。必要に応じて正しい仕様のオイルを補充（*66*ページ）。

タイヤ / ホイール： 空気圧は適正か（冷寒時）。トレッドの深さ / 磨耗（トレッド深 最低2.0 mm）タイヤ / ホイールの損傷、ゆるい / 壊れたスポーク、パンク、その他（*120*ページ）。

ドライブチェーン： ドライブチェーンの調整と潤滑注油が適正であるか（*75* ページ）。

ナット、ボルト、固定部品： ステアリングとサスペンションの構成部品、アクスル、すべての制御装置がきちんと締め付けられ、固定されているかを目視点検。ゆるんだり / 傷んでいる固定具がないか、全体的に点検。

ステアリングの動き： スムーズに動き、ロックとロックの間に遊びがないか。コントロールケーブルにひっかかりがないか（*85*ページ）。

ブレーキ：ブレーキレバーを引き、ブレーキペダルを踏んで、ブレーキの利きが適切かを点検。ブレーキが利くまでのレバー / ペダルの遊びが大きすぎないか、ブレーキをかけている時にスポンジーな感触があるかを点検（*79*ページ）。

ブレーキパッド:すべてのパッドに1.5 mm以上のライニングがなければならない（*79* ページ）。

ブレーキフルードレベル:ブレーキフルードの漏れがないか。ブレーキフルードの液面は、両方のリザーバに付けられた「MAX」と「MIN」のマークの間にあるか（*80*ページ）。

フロントフォーク： 動きがスムーズか。フォークオイルの漏れがないか（*87* ページ）。

スロットル： スロットルグリップの遊びが 2 – 3 mm あるか。スロットルグリップは引っかかりなしにアイドルポジションに戻るか（*70*ページ）。

クラッチ：スムーズに作動するか、ケーブルの遊びは適切か（*73*ページ）。

電装品： すべてのライトとホーンが適切に機能するか（*25*ページ）。

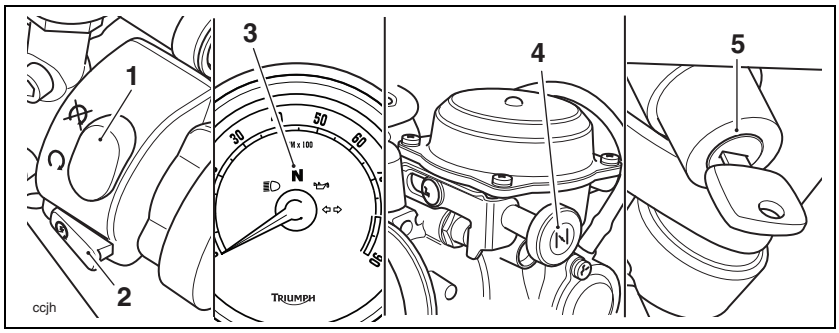
エンジン停止：ストップスイッチでエンジンが停止するか（*32*/*46*ページ）。

スタンド： バネの張力で完全に上の位置まで戻るか。リターンスプリ ングが弱くないか、傷んでいないか（*41*ページ）。

モーターバイクの運転

目次

エンジンの停止 46
エンジンの始動 47
発車 / ギアチェンジ 48
ブレーキ操作 49
駐車 52
高速走行の際の注意 53
一般事項 54
ステアリング 54
荷物 54
ブレーキ 54
タイヤ 54
燃料 54
エンジンオイル 54
電装品 54
その他 54



1. エンジンストップスイッチ
2. スターターボタン
3. ニュートラル表示灯
4. チョーク
5. イグニッションスイッチ

エンジンの停止

- スロットルを完全に戻します。
- ニュートラルを選びます。
- イグニッションスイッチをオフにします。
- ローギヤに入れます。
- 固く平坦な地面にモーターバイクを置き、サイドスタンドで支えてください。
- イグニッションキーをイグニションスイッチから取り外します。
- ステアリングロックをかけます(*31*ページ参照)。

⚠ 注意

エンジンは通常、イグニッションスイッチをOFFポジションにして停止させてください。エンジンストップスイッチは、非常時にのみ使います。エンジン停止の状態でイグニッションスイッチをオンにしたままにしないでください。電装系統に損傷を与えかねません。

エンジンの始動

- ステアリングロックを外します。
- エンジンストップスイッチが RUN ポジションにあることを確認してください。
- イグニッションキーを差し込み、イグニッションスイッチをONの位置に回します。
- 確実にギアをニュートラルに入れてください。
- クラッチレバーを切ります。
- エンジンが冷えている時は、下記の事柄に注意して、チョークを引き出します。気温が25° C 以上の時は、チョークを一番目の位置まで引き出します。気温が25° C 以下の時は、チョークを完全に引き出します。
- エンジンがある程度暖かい時は、チョークを一番目の位置まで引き出します。
- スロットルを全閉にしたままで、エンジンがかかるまでスタータボタンを押し 続けてください。
- クラッチレバーをゆっくりと放します。
- ウォーミングアップの間は、エンジンが急転したりやエンストしないように、チョークをいちどきにほんの少しだけ徐々に押してください。
- エンジンが充分暖まりチョークなしで回転するようになったら、チョークを完全に押し込んでください。
- エンジンが熱い場合は、チョークが完全に押し込まれていることを確認してください。

⚠ 警告

絶対に、閉めきった場所でエンジンを始動したり回転させたりしないでください。排気ガスは有毒です。短時間の内に意識を失い、死に至る可能性があります。

モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

⚠ 注意

本Triumphモーターバイクはエアクーリングシステムを使っているため、エンジンの適切な作動温度を維持するには、シリンダとヘッドの上の空気の流通を良くする必要があります。交通渋滞の時や交通が止まっているような場所で、長時間のアイドリングや非常な低速走行は、エンジンをオーバーヒートさせ、重大な損傷につながる恐れがあります。

⚠ 注意

スタータを5秒以上続けて作動させないでください。スタータモータがオーバーヒートしてバッテリのパワーが落ちます。スターターを繰り返し作動させる場合は、モーターが冷え、バッテリーのパワーが回復するまで 15 秒の間隔を置いてください。

⚠ 注意

油圧低下警告灯はエンジンがスタートすると、すぐに消えるはずです。

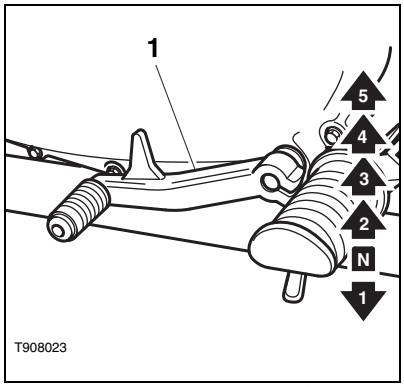
エンジン始動後も油圧低下警告灯が消えない場合は、ただちにエンジンを止めて原因を調べてください。

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンに多大な損傷を与えることがあります。

注記：

- **本モーターバイクにはスターターロックアウトスイッチが付いています。このスイッチは、サイドスタンドが下りていてギアがニュートラルに入っていない時に、電動スターターが作動するのを妨げます。**
- **エンジンが回転していてギアがニュートラルになっていない時にサイドスタンドを伸ばすと、エンジンはクラッチの位置に関係なく停止することがあります。**

発車 / ギアチェンジ



1. **ギアチェンジペダル－全モデル**
   - クラッチレバーを切ってファーストギアを選びます。スロットルを少し開きクラッチレバーをゆっくり放します。クラッチがかみ合い始めたら、スロットルをもう少し開け、エンストを起こさない程度にエンジンのスピードを上げます。
   - クラッチレバーを切りながらスロットルを戻します。ギアを切り換えて一段上げるか下げるかします。クラッチレバーをつなげながら、スロットルを半開きにします。ギアチェンジをする時は、必ずクラッチを使ってください。

⚠ 警告

フロントホイールが浮き上がり（ウィリー）、リアタイヤにブレーキングトラクションがかかるので（空転）、ローギアでのスロットルの全開や急開は避けてください。

本モーターバイクに慣れていない場合は、スロットルを慎重に開いてください。「ウィリー走行」やトラクションの低減は、モーターバイクを制御不能にし、事故を引き起こすことがあるからです。

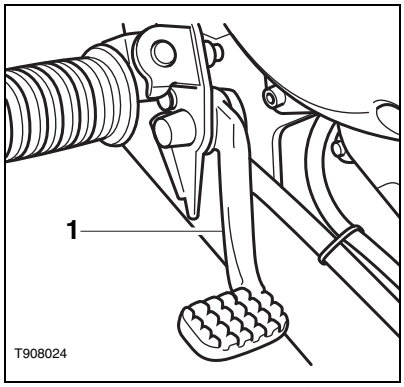
注記：

- **ギアチェンジの仕組みは　「ポジティブストップ」タイプです。つまり、ギアチェンジペダルを１回動かす毎に、ギアは上か下の方向に１段ずつ切り換わる仕組みです。**

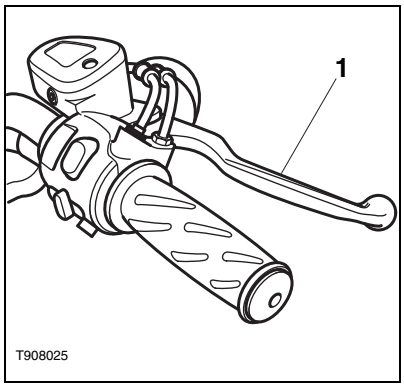
⚠ 警告

高速走行中に低速ギアに切り換えないでください。エンジン回転数が過多になることがあります。これは後輪をロックしてバイクを制御不能に陥らせ、事故を招く可能性があります。エンジンも損傷を受けかねません。各ギアを低速のギアへ切り換える時は、エンジン速度を中程度にして行なってください。

ブレーキ操作



1. リヤブレーキペダル－全モデル



1. フロントブレーキレバー－全モデル

⚠ 警告

ブレーキをかける時は、以下の事を守ってください：

モーターバイクの速度を落とすためにクラッチを噛み合わせたままで、スロットルを完全に閉じてください。

モーターバイクが完全に停止した時、ギアはファーストに入っているよう、ギアを一段ずつシフトダウンしてください。

停止する時は、必ず両方のブレーキを同時にかけてください。普通は、フロントブレーキはリアブレーキより少し強めにかける必要があります。

ギアを低速に切り換えるかクラッチを完全に切ってください。エンストを起こさないようにするためです。

ブレーキは絶対にロックさせないでください。モーターバイクを制御しきれなくなり、事故を引き起こしかねません。

⚠ 警告

急ブレーキをかける時は、ギアのシフトダウンは無視し、横滑りすることなく前後のブレーキを可能な限り強くかけることに集中してください。ライダーは、車の通らない所で急ブレーキのかけ方を練習しなくてはなりません。

Triumph は、ライダー全員に教習を受けることをお勧めします。教習では安全なブレーキ操作についてのアドバイスが受けられます。間違ったブレーキテクニックは、バイクを制御不能に陥らせ事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

安全を確保するため、ブレーキ操作、加速、コーナリングには充分注意を払ってください。不注意な行為はコントロールを失わせ、事故のもととなる可能性があります。フロント又はリアブレーキの一方だけを使った場合、全体的なブレーキ性能は低下します。過度にブレーキをかけると前後いずれかの車輪をロックさせる恐れがあり、バイクの制御性が低下して事故のもととなりかねません。

できれば、コーナーに入る前に速度を落とすかブレーキをかけてください。コーナリング半ばでスロットルを閉めたりブレーキをかけると、車輪がスリップする恐れがあり、制御不能に陥って事故を起こしかねません。

濡れた路面、雨天時、ゆるんだ路面を走行している時は、操縦および停止能力が低下することがあります。このような状況下では、動作はことごとくなめらかでなくてはなりません。急激な加速、ブレーキ、コーナリングは、コントロールを失わせ、事故のもととなりかねません。

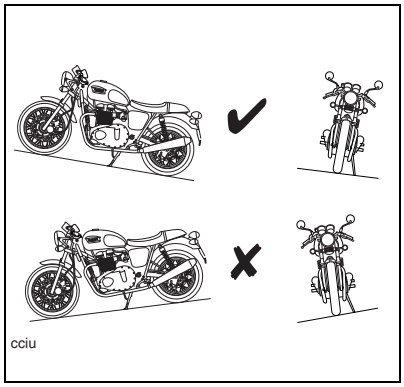
⚠ 警告

長く急な坂道を下る時は、ギアを低速に切り換えてエンジンブレーキを使い、断続的に両方のブレーキをかけてください。ブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキを過熱させ、効力を低減させる可能性があります。

ブレーキペダルに足をかけたまま、又はブレーキレバーに手をかけたまま走行すると、ブレーキライトが点灯し、他のドライバーの誤解を招く恐れがあります。又、ブレーキを過熱させ、ブレーキ作用の有効性を低下させる恐れがあります。

エンジンのスイッチを切ったまま惰走したり、モーターバイクを牽引したりしないでください。トランスミッションは、エンジンが回転中だけ圧力給油されます。潤滑が不十分であれば、トランスミッションの損傷や焼付きの原因となり、急激にモーターバイクのコントロールが失われて事故を招く恐れがあります。

駐車


cciu

ニュートラルにしたら、OFF ポジションにイグニッションスイッチを回してください。

盗難防止のために、ステアリングをロックします。

モーターバイクの転倒を防ぐために、必ず、固く平坦な場所に駐車してください。

斜面に駐車する時にスタンドが外れ、バイクが前に動いて倒れないように、必ず上がり坂に向けて駐車してください。

側面が傾斜している場所では必ず、傾斜がモーターバイクを自然にサイドスタンドの方に押しつけるように駐車してください。

横に6°以上傾いている斜面には駐車しないこと。又、坂下に向けての駐車は、絶対に避けてください。

注記：

- **夜間に道路近くに駐車したり、法律で駐車灯の点灯を義務づけられている場所に駐車したりする場合は、イグニッションスイッチをP(PARK)にして、テールライト、ライセンスプレートライト、ポジションライトを点灯したままにしてください。**

スイッチをPポジションに合わせたままで長時間放置しないでください。バッテリーが上がるからです。

発進する前に、スタンドが完全に引っ込められているのを確認してください。

⚠ 警告

柔らかい地面や、急斜面には駐車しないでください。そうした場所で駐車すると、モーターバイクが倒れて損傷したりケガをしたりします。

⚠ 警告

ガソリンは高可燃性で、一定の状況下では爆発する恐れがあります。車庫その他の屋内に駐車する時は、換気が良く、モーターバイクの近くに火炎や火花の発生源がないことを確認してください。これにはパイロットランプのついた器具も含まれます。

上記アドバイスに従わなかった場合、火災が発生して損傷したりケガをしたりする恐れがあります。

⚠ 警告

走行後、エンジンと排気装置は高温になっています。通行人や子どもがモータバイクに触れることができるような場所に駐車しないでください。

熱いうちにエンジンや排気装置に触ると火傷する恐れがあります。

高速走行の際の注意

⚠ 警告

本 Triumph モーターバイクは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなくてはなりません。高速でモーターバイクを運転すると、スピードが増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間が激減するため、危険な状況に陥る可能性があります。天候や交通状態を考慮し、状況次第で必ず減速してください。

⚠ 警告

本 Triumph モーターバイクの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、あるいはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

⚠ 警告

高速走行時のモーターバイクの操縦特性は、法定制限速度で走行している時の慣れ親しんだ特性とは違う可能性があります。十分なトレーニングを受けて必要な技術を修得するまでは、高速走行を試みないでください。誤った操縦の結果、重大な事故に終わることになりかねないからです。

⚠ 警告

以下に列挙された事柄は極めて重要なので、絶対に軽視してはなりません。普通の速度で走行中は気づきもしないような問題が、高速走行時には大問題になりかねません。

一般事項

モーターバイクが定期整備表に従って整備されてきていることを確認してください。

ステアリング

ハンドルは、遊びが大き過ぎず、きつ過ぎる部分もなく、スムーズに回転するか調べてください。コントロールケーブルがステアリングの邪魔にならないことを確認してください。

荷物

確実に、すべての荷物用コンテナを閉じてロックし、モーターバイクにしっかり固定してください。

ブレーキ

フロントとリアブレーキが適切に機能しているか調べてください。

タイヤ

高速走行ではタイヤに負担がかかります。安全走行には良質のタイヤが絶対必要です。タイヤの全体的な状態を調べ、適正空気圧になるまで空気を入れて（タイヤが冷えた状態で）、ホイールバランスを点検してください。タイヤ空気圧を点検した後、バルブキャップをしっかりとはめます。タイヤの点検とタイヤの安全性確保に関しては、整備の章と仕様の章の指示に従ってください。

燃料

高速走行中は燃費が高くなります。燃料は十分補給してください。

⚠ 注意

排気装置には、排ガスレベルを低減するのに役立つ触媒コンバーターが取り付けられています。燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態でモーターバイクを走行させると、触媒コンバーターに永久的な損傷を与える可能性があります。ツーリングに十分な量の燃料を入れるようにしてください。

エンジンオイル

オイルレベルを適正にします。補充の際は、正しい等級とタイプのオイルが使われていることを確認してください。

電装品

ヘッドライト、テールランプ、ブレーキライト、インジケータライト、ホーン等、全てが正しく機能することを確認します。

その他

全ての固定具が締め付けられ、安全に関連のある部品は全て良好な状態にあることを確認します。

アクセサリーと積載条件

アクセサリーを付け加えたり積載重量を増したりすると、モーターバイクのハンドリング特性に影響を与え、安定性に変化を生じさせて、減速せざるを得なくなることがあります。以下は、モーターバイクにアクセサリーを付け加えたり、同乗者や荷物を乗せて運転する場合に生じ得る危険について述べたものです。ガイドラインとして参考にしてください。

⚠ 警告

積載の仕方が不適当な場合、事故につながる危険な走行状態を引き起こしかねません。

積載する荷物は、必ずモーターバイクの両側に等しく重量がかかるように振り分けてください。モーターバイクが走行中に荷物が動かないように、適切に固定された状態であることを確認してください。

荷物が安全な状態であるか、たえずチェックしてください(バイクの走行中は不可)。また、必ず、荷物がモーターバイクの最後部からはみ出すことのないようにしてください。

最大車両積載重量の 200 kg を絶対に超えないようにしてください。

この最大積載重量は、ライダー、同乗者、積載荷物の重量の合計から成っています。

⚠ 警告

Steve McQueenⅱ エディションは、ライダーだけを乗せる一人乗り用二輪車として設計されています。このモデルで二人乗りをすることは危険であり、制御不能となって事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

バイクの制御性を損なうようなアクセサリーを取り付けたり、荷物を積んだりしないでください。 可視度、照明具の作動、変更されたロードクリアランスやバンキング能力（傾斜角度など）、制御機能、ホイールトラベル、フロントフォークの機構部分、モーターバイクの操作にかかわるその他の面に悪影響を与えていないことを確認してください。

アクセサリーと積載条件

⚠ 警告

アクセサリーを装備したバイク、または、何であろうとペイロードを運搬しているモーターバイクは、絶対に130 km/h以上のスピードで運転しないでください。上記のいずれか / 両方が該当する状態の時は、たとえ法定最高速度の範囲内であっても、130 km/h を超える速度での運転を試みてはなりません。

アクセサリーおよび/またはペイロードがあると、モーターバイクの安定性と操縦性に変化が生じることがあります。

モーターバイクの安定性に生じる変化を考慮に入れなかった場合、バイクのコントロールが妨げられて、事故につながる恐れがあります。

許可されていないアクセサリーの取り付け、不適切な荷物の積み方、磨耗したタイヤ、モーターバイク全体のコンディション、悪路や悪天候などの状況次第で、絶対制限速度は 130 km/h より低減することを忘れないでください。

⚠ 警告

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

⚠ 警告

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

⚠ 警告

同乗者が乗っていると、モーターバイクの操縦性能やブレーキ性能に影響を与えることがあります。ライダーは、同乗者を乗せて運転する時に生じるこうした変化に備えておかなければなりません。二人乗りのトレーニングを受け、それがもたらす操作特性の変化をよく知って落ち着いて対応できるようにならない限り、二人乗り走行を試みてはなりません。

同乗者の存在を考慮に入れないでモーターバイクを運転した場合、バイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす可能性があります。

⚠ 警告

同乗者に対して、急に身体を動かしたり変な座り方をすると、モータバイクのバランスを崩す可能性があると伝えてください。

ライダーは同乗者に以下のように伝えてください。

- 同乗者は、モータバイクが走行中はじっと動かずに乗車していて、運転の邪魔をしないことが大切です。
- パッセンジャーフットレストに足を乗せ、シートストラップかライダーの腰をしっかり掴んでください。
- コーナーを回るときにライダーが身体を傾けたら同乗者も一緒に身体を傾け、それ以外は傾けないようにアドバイスしてください。

⚠ 警告

バイクに動物を載せて運ばないでください。

動物が急に動き出してモータバイクのバランスを崩し、事故につながる恐れがあります。

⚠ 警告

装備されているフットレストに足が届かないほど背の低い人を、バイクに同乗させないでください。

フットレストに足が届かないほど背の低い同乗者は、バイクにしっかりと腰掛けられず、不安定な走行状態を引き起こしかねません。その結果、制御性が損なわれて事故に至る恐れがあります。

⚠ 警告

絶対にフレームとステアリング装置の間に物を保管しようとしないでください。これはステアリングのじゃまになる可能性があり、制御性を損なって事故につながることがあります。

ハンドルあるいはフロントフォークに重さが加わると、ステアリングアセンブリーのかさが増すため、ステアリングの制御性が損なわれて事故を引き起こす結果になりかねません。

アクセサリーと積載条件

⚠ 警告

タンデムシートに小さな荷物を載せて運ぶ場合、荷物の総重量が 5 kg を超えてはならず、バイクの制御性を損なうようなものであってはなりません。また、車体の後部や脇からはみ出さない程度の大きさで、しっかりと固定されていなくてはなりません。

不安定で制御性を損なうような、あるいは車体の後部や側面からはみ出している、重量が 5 kg を超える荷物を運搬すると、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす恐れがあります。

小さな荷物をリアシートに積載しただけでも、最高速度を 130 km/h に落とす必要があります。

⚠ 警告

シングルシートのモーターサイクルに装着した荷物ラックの最大安全積載量は 5 kg です。この積載量を超えると、モーターサイクルが不安定になり、制御不能に陥って事故を招く恐れがあるため、最大積載量を超えた積載は絶対にやめてください。

整備と調整

目次

定期整備 62
定期整備の記録 65
エンジンオイル 66
オイルレベルの点検 67
オイルとオイルフィルターの交換 67
使用済エンジンオイルの処分 69
オイルの仕様と等級 69
スロットルグリップ 70
点検 71
調整 71
クラッチ 73
点検 73
調整 74
ドライブチェーン 75
チェーンの注油 75
チェーンのたるみ 76
チェーンの磨耗点検 77
ブレーキ 79
ブレーキパッドの磨耗点検 79
新ブレーキパッドと新ブレーキディスクのすり合わせ運転 79
ブレーキパッドの磨耗補整 80
ブレーキライトスイッチ 80
ブレーキフルード 80
フロントブレーキフルードレベルの点検と調整 - Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション、ならびに Thruxton 82
フロントブレーキフルードレベルの点検と調整ー Bonneville、Bonneville SE、Scrambler 83
リアブレーキフルードレベルの点検と調整 - Bonneville、Bonneville SE、Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション、ならびに Thruxton 83
リアブレーキフルードレベルの点検と調整ー Scrambler 84

整備と調整

ステアリング / ホイールベアリング 85
ステアリングの点検 85
点検 86
ホイールベアリングの点検 86
フロントサスペンション 87
フロントフォークの点検 87
サスペンションの設定 87
フロントサスペンションの調整 87
リアサスペンションの調整 88
目安となるサスペンション設定値 89
タイヤ 90
タイヤ空気圧 92
タイヤの磨耗 92
トレッドの推奨最小深度 93
タイヤの交換 94
バッテリー 96
バッテリーの処分 97
バッテリーの取り外し 97
バッテリーの整備 98
バッテリの放電 98
モータバイクから外してあるバッテリー、あまり乗らない
モータバイクのバッテリーの放電 98
バッテリーの充電 99
バッテリーの取り付け 100
ヒューズ 100
ヒューズの位置 100
ヒューズの交換 100
ヒューズの識別 101
ヘッドライト 102
ヘッドライトの調整 102
ヘッドライト／ポジションライトのバルブの交換 103
リアライト／ライセンスプレートライト 104
リアライト 104
バルブの交換 104

方向指示灯 105
バルブの交換 105
洗車 105
洗車の準備 105
注意すべき部分 106
洗車後 106
シートケア 107
塗装されていないアルミニウム部品 107
排気装置の清掃 108
アクセサリフロントガラスの清掃 109

整備と調整

定期整備

モーターバイクを安全で信頼できる状態に維持するために、本章で要点を述べる整備と調整を必ず行なってください。定期整備表に沿って、日常の安全点検の章で指定されていることを実施してください。以下は、日常の点検および簡単な整備と調整を実施する際に従う手順を解説したものです。

⚠ 警告

定期整備表の整備項目を正しく実施するため、特別な工具、知識、トレーニングが必要です。そのような知識と設備を備えているのは、正規 Triumph ディーラーだけです。

不適切な整備や整備上の怠慢は危険な走行状態につながる可能性があります。本モーターバイクの定期整備は、必ず正規Triumphディーラーで実施してください。

整備内容	オドメーター上のキロ数または経過期間の いずれか先に達した方					
		初回整備	整備 A	整備 B	整備 C	整備 D
	毎	800 1ヶ月	10,000 1 年	20,000 2 年	30,000 3 年	40,000 4 年
エンジンとオイルクーラー ー 漏れ点検	日	•	•	•	•	•
エンジンオイルー交換	-	•	•	•	•	•
エンジンオイルフィルターー交換	-	•	•	•	•	•
バルブクリアランスー点検 / 調整	-			•		•
エアクリーナーー交換	-			•		•
スパークプラグー点検	-		•		•	
スパークプラグー交換	-			•		•
オートスキャン - Triumph 診断ツールでフルオートスキャンを実施	-	•	•	•	•	•
燃料フィルター交換	-			•		•
燃料系統ー漏れ、擦り切れ、その他を点検	日	•	•	•	•	•
スロットルケーブルー点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
ライト、計器類&電装系統ー点検	日	•	•	•	•	•
ステアリングー作動状態点検	日	•	•	•	•	•
ヘッドストックベアリングー点検 / 調整	-		•	•	•	•
ヘッドストックベアリングー潤滑	-			•		•
フォークー漏れ / 作動状態点検	日	•	•	•	•	•
フォークオイルー交換	-					•
ブレーキフルードレベルー点検	日	•	•	•	•	•
ブレーキフルードー交換	2年ごと					

整備と調整

整備内容	オドメーター上のキロ数または経過期間の いずれか先に達した方					
		初回整備	整備 A	整備 B	整備 C	整備 D
	毎	800 1ヶ月	10,000 1 年	20,000 2 年	30,000 3 年	40,000 4 年
ブレーキパッドー磨耗点検	日常	•	•	•	•	•
ブレーキマスターシリンダーーフルード漏れ点検	–	•	•	•	•	•
ブレーキキャリパー、フルード漏れとピストンの焼き付き点検	–	•	•	•	•	•
ドライブチェーンー潤滑注油	300 キロごと					
ドライブチェーンー摩耗点検	800 キロごと					
ドライブチェーンのゆるみー点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
ドライブチェーンラビングストリップー点検			•	•	•	•
締め具類ー締まり具合を目視点検	日常	•	•	•	•	•
ホイール – 損傷がないか点検	日常	•	•	•	•	•
スポーク（装着されている場合）ースポークに破損等がないかホイールを点検 / スポークの張り具合の点検	日常	•	•	•	•	•
ホイールベアリングー摩耗 / 作動点検	–	•	•	•	•	•
タイヤの摩耗 / 損傷 – 点検	日常	•	•	•	•	•
タイヤ空気圧ー点検 / 調整	日常	•	•	•	•	•
クラッチケーブルー点検 / 調整	日常	•	•	•	•	•
スタンドー作動点検	日常	•	•	•	•	•
セカンダリーエアインジェクションシステムー点検 / 清掃	–			•		•
燃料ホースおよび蒸発ロスホース＊– 交換	–					•

＊特定市場でのみ装着されている蒸発システム。

⚠ 警告

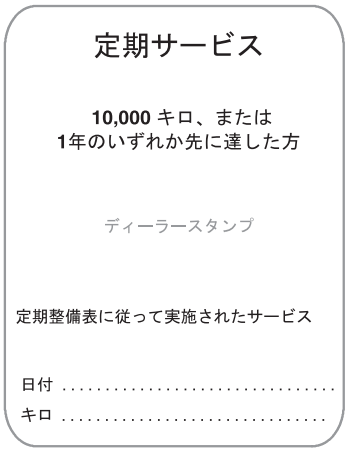
整備はどれも極めて大切ですから、怠ってはなりません。整備や調整の不備により、モーターバイクの部品が誤作動を起こすことがあります。 誤作動を起こしたモーターバイクは危険であり、事故を引き起こす危険があります。

天候、地形、地理的条件によって整備内容は異なります。モーターバイクが使用される環境の特殊性や個々のオーナーの必要性に合わせて、整備スケジュールを調整してください。

不適切な整備や整備上の怠慢は危険な走行状態につながる可能性があります。本モーターバイクの定期整備は、必ず正規Triumphディーラーで実施してください。

Triumph Motorcycles 社は、オーナーによって実施された整備や調整の不備に起因する損傷、負傷については、一切責任を負いませんのでご了承ください。

定期整備の記録



サービスハンドブックへの記入

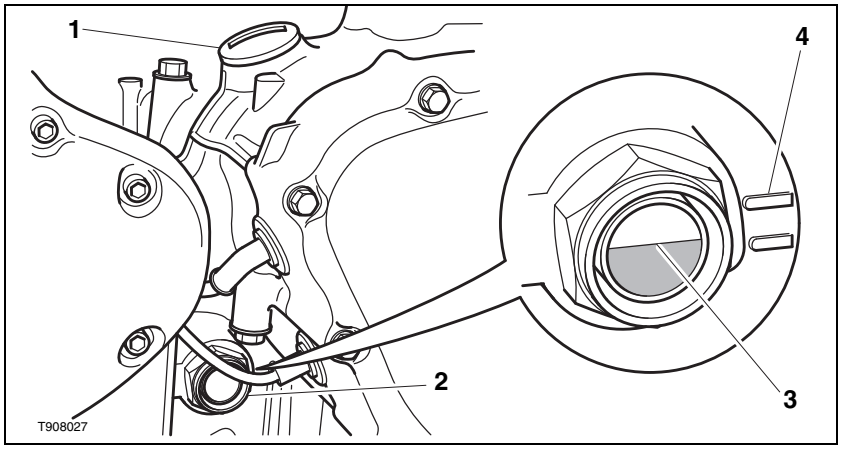
定期サービスを受けるために正規Triumphディーラーを訪れた時は、必ず、ディーラーの受付係にお客様のサービスハンドブックを呈示してください。

このサービスハンドブックは、モーターバイクの保証条件の下で必要とされる定期整備が実施されたことを記録するものです。

整備を受けたモーターバイクを受け取る際は、必ず、サービスハンドブックにスタンプが押してあり、日付と現在のオドメーターの数字が記録してあることを確認してください。

これらの情報は保証請求の際に必要であり、又、本モーターバイクの将来の所有者にとっては、モーターバイクの価値を高めるものとなるでしょう。

エンジンオイル



1. フィラー
2. サイトガラス
3. オイルレベル（正しいレベルを示しています）
4. クランクケースのオイルレベルライン

エンジン、トランスミッション、クラッチが正常に機能するように、エンジンオイルを適切なレベルに保ち、定期整備表に従ってオイルとオイルフィルターを交換してください。

⚠ 警告

エンジンオイルが不足、劣化、あるいは汚染した状態でモーターバイクを運転すると、エンジンの摩耗を早め、エンジンやトランスミッションの焼付きに帰する恐れがあります。エンジンやトランスミッションの焼付きは、バイクを制御不能に陥らせ事故を招く恐れがあります。

オイルレベルの点検

エンジンを始動し、約5分間空転させます。

エンジンを停止し、オイルが安定するまで最低 3 分間待ちます。

サイトグラス越しに見えるオイルレベルに注意してください。

適正レベルの時は、サイトグラス越しに見える液面が、クランクケースについている 2 本の平行線の間にあるはずです。

注記：

- **エンジン内のオイルレベルを正確に点検できるのは、エンジンが通常の作動温度で、モーターサイクルが（サイドスタンドを使用せず）真っ直ぐに立っているときだけです。**

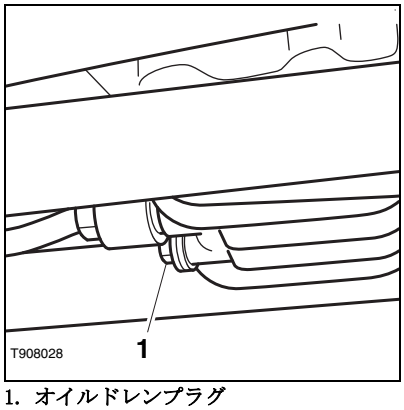
オイルを補充する必要がある場合は、フィラープラグを取り外し、サイトグラス内の液面が適正レベルになるまで、少しずつオイルを注ぎ足します。

適正レベルに達したら、フィラープラグをはめて締め付けます。

⚠ 警告

エンジンを切った直後は、エギゾーストシステムの温度が高くなっています。排気装置そのもの、またはその付近を扱う場合は、作業を始める前に十分時間をかけて排気装置を冷ましてください。どの部分であろうと高温の排気装置に触れると火傷をする恐れがあります。

オイルとオイルフィルターの交換



1. オイルドレンプラグ

⚠ 警告

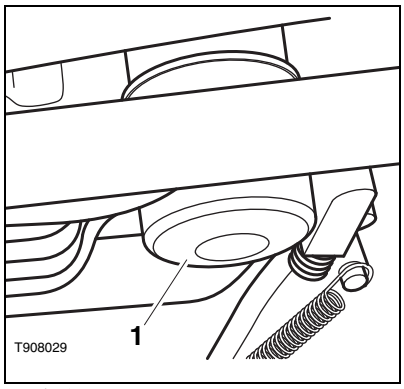
エンジンオイルに長く触れたり繰り返し触れたりすると、皮膚の乾燥、かゆみ、皮膚炎を起こすおそれがあります。又、使用済みエンジンオイルには有害となり得る、発ガン性の汚染物質が含まれています。適当な防護服を着用し、皮膚に触れないようにしてください。

エンジンオイルとフィルターは、定期整備表に従って交換しなければなりません。

- エンジンを完全に暖機してから、停止させます。
- エンジンの下にオイルパンを置きます。
- スキッドパンが装着されている場合は取り外します。
- エンジンドレンプラグを取り外します。

⚠ 警告

オイルは触れるには熱過ぎるかもしれません。適切な防護服、手袋、防護メガネなどを着用し、高温のオイルに触れないようにしてください。過熱したオイルに触れると火傷する恐れがあります。



1. **オイルフィルター**

- Triumph サービスツール T3880313 を使い、オイルフィルターをねじって外します。
- オイルフィルターを捨てます。
- 事前に、交換用オイルフィルターに新しいエンジンンオイルを入れておきます。
- 新しいオイルフィルターの**シーリングリングにきれいなエンジンオイル**を塗ります。オイルフィルターを取り付けて **10 Nm** で締め付けます。
- オイルが完全に排出された後、新しいシーリングワッシャーをドレンプラグにはめます。プラグを取り付けて**25 Nm**まで締め付けます。
- スキッドパンを取り付けて、ボルトを **18 Nm** で締め付けます。

⚠ 警告

エンジンを切った直後は、エギゾーストシステムの温度が高くなっています。排気装置そのもの、またはその付近を扱う場合は、作業を始める前に十分時間をかけて排気装置を冷ましてください。どの部分であろうと高温の排気装置に触れると火傷をする恐れがあります。

- オイルフィラープラグを取り外します。
- サイトグラス内にエンジンオイルが見えてくるまでエンジンオイルを注ぎます。(*69*ページを参照)。
- Scrambler の場合は、適切なじょうごを使用してオイルフィラーホールにオイルを注ぐ必要があります。
- 仕様の章に記載されている容量を超えるほど、オイルを入れないでください。
- エンジンをかけ、最低 30 秒間アイドルさせます。

⚠ 注意

オイルがエンジン各部にゆきわたる前に、アイドル以上にエンジンの回転を上げると、エンジンの損傷や焼付きのもととなる可能性があります。オイルが完全にゆきわたるよう 30 秒間エンジンを回転させた後でない限り、エンジン速度を上げないでください。

- エンジンが始動すると間もなく、油圧警告灯が消えることを確実にします。

⚠ 注意

エンジンオイルの油圧が低すぎると、油圧低下警告灯が点灯します。エンジンが回転中なのに油圧警告灯が消えない場合は、即座にエンジンを止めて原因を調べてください。油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンに損傷を与えることがあります。

- イグニッションをオフにして、この章ですでに説明した要領でオイルレベルを点検し、オイルレベルがサイトグラスの下限ラインと上限ラインとの間にくるまでオイルを注ぎ足します。

使用済エンジンオイルの処分

環境保護のため、オイルを地面、下水、排水口、水路等に流さないでください。使用済オイルは賢明に処分してください。処分の仕方がわからない時は、最寄りの地方自治体にお問い合わせください。

オイルの仕様と等級

Triumph の高性能燃料噴射エンジンは、API SH（またはそれ以上）**および** JASO MA 仕様にかなった半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 15W/50 のモーターサイクル用エンジンオイル、例えば、Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40（完全合成）を使用するように設計されています。国によっては、Castrol Power RS Racing 4T 10W-40（完全合成）として販売されています。

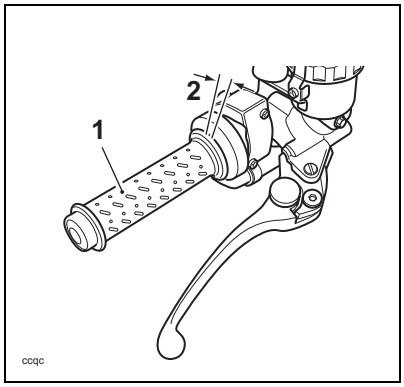
⚠ 注意

エンジンオイルに化学添加剤を加えないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑するようになっており、添加剤はクラッチがスリップする原因となる場合があります。

鉱油、植物油、非洗浄性オイル、ひまし油など、求められている仕様に適合しないオイルは使わないでください。そのようなオイルを使うと、エンジンに瞬時に多大な損傷を与えかねません。

エンジンオイルの交換又は補給中に、クランクケースに異物が混入しないよう注意してください。

スロットルグリップ



1. スロットルグリップ
2. 2 - 3 mm

⚠ 警告

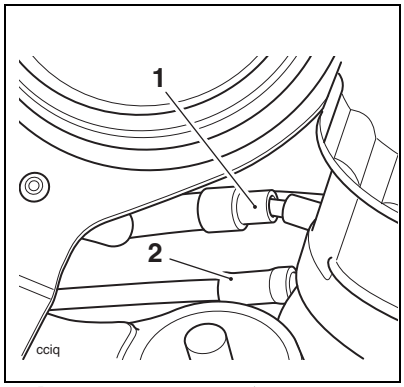
スロットルグリップは、スロットルボディー内のスロットルバルブを制御します。スロットルケーブルが正しく調整されていない場合は、きつ過ぎてもゆるすぎてもスロットルを制御するのが難しくなり、性能に悪影響を与えることがあります。

定期整備表に従ってスロットルグリップの遊びを点検し、必要に応じて調整を行なってください。

常にスロットルの「感触」の変化に敏感でいてください。少しでも変化に気づいた時は、正規 Triumph ディーラーにスロットルシステムを点検してもらってください。メカニズムの磨耗が原因で生じた変化は、スロットルの膠着につながる可能性があります。

不適当に調整された、引っかかったり動かなかったりするスロットルにより、バイクが制御不能に陥って事故を招くことがあります。

点検



1. 「オープニング」ケーブルアジャスターツイストグリップ側
2. 「クロージング」ケーブル

- 力を入れなくてもスムーズにスロットルが回るか、ひっかからずにスロットルが戻るか確認してください。問題が見つかったり、不審な点のある場合は、正規Triumphディーラーに、スロットルシステムを点検してもらってください。
- スロットルグリップを前後に軽く回した時に、スロットルグリップに2 - 3 mmの遊びがあるかを調べてください。
- 遊びの大きさが不適当な場合、Triumph 社は、調整を最寄りの正規 Triumph ディーラーにしてもらうことをお勧めします。ただし、非常時の場合は以下の手順でスロットルを調整できます。

調整

⚠ 警告

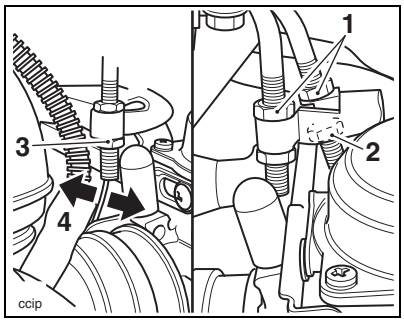
調整や配線の不備で、膠着状態になった、あるいは損傷を受けたスロットルケーブルを付けたままモーターバイクを運転すると、スロットルの機能が妨げられ、バイクを制御しきれなくなって事故に帰する場合があります。

不適切な調整や配線を避け、動きのスムーズでない、あるいは損傷のあるスロットルを継続的に使用することのないように、必ず、最寄りの正規 Triumph ディーラーにスロットルを点検、調整してもらってください。

注記：

- **微調整は、スロットルのツイストグリップ側のアジャスターを使って行なうことができます。この方法で正しい設定ができなかった場合は、スロットルボディー側にあるアジャスターを使う必要があります。設定は、最初に「オープニング」ケーブル、次に「クロージング」ケーブルの順で行なわなくてはなりません。**
  - シートを取り外します。
  - 最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。
  - ツイストグリップ側の「オープニング」ケーブルアジャスターを、それぞれの方向に等量の調整がなされるように設定します。

- ケーブルのスロットルボディー側にある「オープニング」ケーブルアジャスターを、ツイストグリップのところに2 - 3 mmの遊びをもたせるよう設定します。ロックナットを締め付けます。



1. **ロックナット**
2. **オープニングケーブルアジャスター**
3. **クロージングケーブルアジャスター**
4. **クロージングケーブルー遊び測定ポイント**

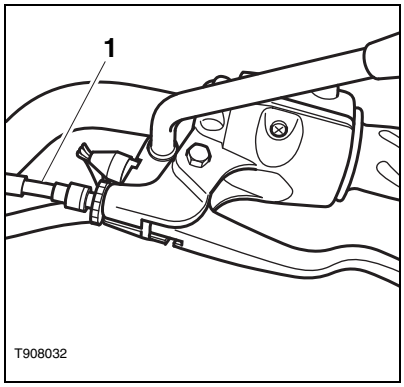
- ケーブルのツイストグリップ側に近いアジャスターを使い、2 - 3 mmの遊びをもたせるのに必要な微調整を行なってください。ロックナットを締め付けます。
- スロットルを完全に閉じた状態で、「クロージング」ケーブルに2 - 3 mmの遊びがあることを確実にします。必要ならば「オープニング」ケーブルと同様に調整します。ロックナットを締め付けます。

⚠ 警告

両方のケーブルのアジャスターロックナットを確実に締め付けます。ロックナットがゆるんでいると、スロットルが膠着状態になる可能性があるからです。スロットルの調整が不適切で、ひっかかったり膠着状態になると、バイクの制御性が損なわれて事故を起こす場合があります。

- プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。
- シートを再装着します。
- 力を入れなくてもスムーズにスロットルが回るか、ひっかからずにスロットルが戻るか確認してください。
- 走行を再開する前に、最寄りの正規 Triumph ディーラーまで慎重にバイクを走らせ、そこでスロットルシステムを徹底的に調べてもらってください。

クラッチ



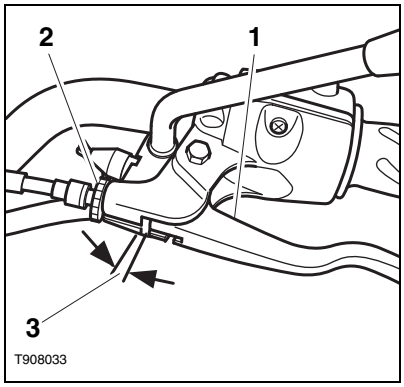
1. クラッチケーブル

本モーターバイクにはケーブルで操作するクラッチが装備されています。

クラッチレバーの遊びが大きすぎると、クラッチが完全に外れないでエンストを起こしたり、ギアチェンジが困難になる場合があります。 逆にクラッチレバーの遊びが十分でなければ、クラッチがスリップして完全にかみ合わなくなる恐れがあります。

定期整備表に従って、必ずクラッチレバーの遊びを点検してください。

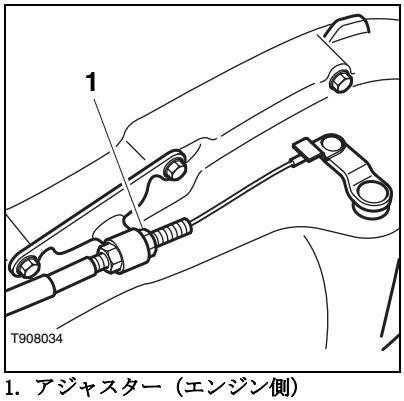
点検



1. レバー
2. アジャスター（レバー側）
3. 2 – 3 mm

- 上図の矢印のついているクラッチレバーの部分に2 – 3 mmの遊びがあるかどうか点検してください。
- 遊びの大きさが不適当な場合は、調整する必要があります。

調整



1. アジャスター（エンジン側）

注記：

- **Thruxtonならびに Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディションには、きざみ付きロックナットが使用されています。Bonneville、Bonneville SE および Scrambler には、ラチェットタイプアジャスターが取り付けられています。**
  - クラッチケーブルのレバー側のきざみ付きロックナットを緩め、クラッチレバーの遊びの大きさが適正になるまでアジャスタースリーブを回します。
  - きざみ付きロックナットをクラッチレバーアセンブリーにはめて締めます。
  - レバーアジャスターを使って適当な調整ができなかった場合は、ケーブルのエンジン側にあるアジャスターを使用してください。
  - アジャスターロックナットを緩めます。
  - クラッチレバーのところに2 - 3 ㎜の遊びができるよう外側のケーブルアジャスターを回します。
  - ロックナットを締め付けます。
  - 必要に応じてレバーアジャスターを使い、微調整を行なってください。
  - ケーブルの両端にあるロックナットがすべて締まっていることを確認してください。

ドライブチェーン

ドライブチェーンは、安全走行のためと過度の磨耗防止のために、定期整備表の求めるところに従って定期的に点検、調整、潤滑注油しなければなりません。ほこりっぽい、ぬれている、塩分が多い、砂が多いなど極端な状況のもとでは、点検、調整、潤滑注油は、より頻繁行なわなくてはなりません。

ひどく磨耗していたり、(きつ過ぎ、ゆる過ぎのいずれでも)調整が適切でないチェーンは、スプロケットから外れたり、壊れたりする恐れがあります。

⚠ 警告

ゆるい、磨耗している、壊れている、スプロケットから飛び出す、このようなチェーンは、エンジンスプロケットに絡まったり後輪をロックする場合があります。

エンジンスプロケットに絡まったチェーンは、ライダーを負傷させることがあり、モーターバイクの制御性が損なわれて事故を招くことがあります。

同様に、後輪が動かなくなると、モーターバイクの制御性が損なわれて事故を招くことがあります。

チェーンの注油

チェーンは 300 キロ走行する毎に、あるいは雨天時や濡れた路上での走行後は、潤滑注油が必要です。また、チェーンが乾いている時も常に注油してください。

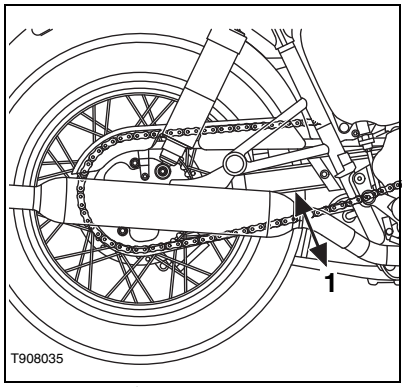
仕様の章で推奨されている、特別のチェーン潤滑剤を使用してください。

- ローラーの両側に潤滑油を差します。それにより、チェーンローラーと軸受けにオイルがゆきわたります。チェーンの「X」リングにも注油してください。余分なオイルは拭き取ります。
- チェーンの汚れが特にひどい時は、最初にパラフィンで汚れを落としてから、上記の要領で注油します。

⚠ 注意

パワー「ジェット」洗車設備でチェーンを洗わないでください。チェーンの構成部品に損傷を与える恐れがあるからです。

チェーンのたるみ



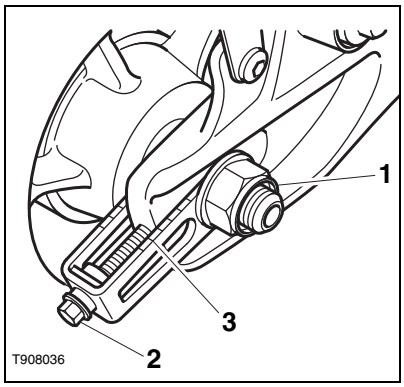
1. 最大ムーブメントポジション

点検

- 固く平坦な地面にモーターバイクを置き、サイドスタンドで支えてください。
- リアホイールを回し、チェーンが最もきつくなる場所を見つけて、スプロケット間の真ん中の位置で、垂直方向のたるみを測定します。
- ThruxtonおよびScramblerの場合、ドライブチェーンのたるみが30 - 40 mmになるようにしてください。
- その他のモデルでは、ドライブチェーンのたるみは、15 ～ 30 mmの範囲でなければなりません。

調整

- チェーンのたるみの測定値が適正でない場合は、調整は以下の要領で行なわなくてはなりません：
- ホイールスピンドルナットを緩めます。
- 両方のアジャスターを等分に動かします。チェーンのたるみを大きくするには、アジャスターボルトを時計回りに、小さくするには反時計回りに回します。



1. リアホイールスピンドルナット
2. アジャスター
3. ホイールアラインメントマーク

- チェーンのたるみが正しく設定されたら、リアホイールスピンドルナットを **85 Nm** で締めつけます。
- アジャスターを反時計回りに **5 Nm** で締め付けます。

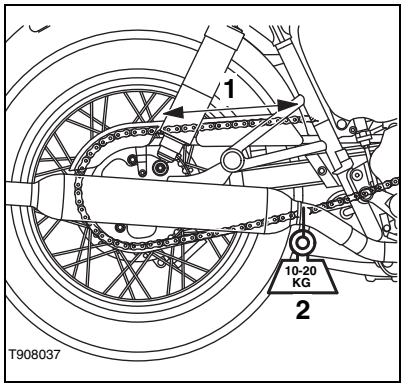
- ホイールアラインメントマークがモーターバイクの両側の同じ位置にくることを確実にしてください。適切でない時は必要に応じて調整します。
- リアホイールを回し、チェーンの調整具合を再点検します。必要な場合は再調整します。

⚠ 警告

ホイールスピンドルが緩んでいる状態でモーターバイクを運転すると、バイクの安定性と操縦性を損なう結果になる恐れがあります。安定性と操縦性が損なわれると、制御しきれなくなって事故につながる恐れがあります。

- リアブレーキの効き具合を調べてください。

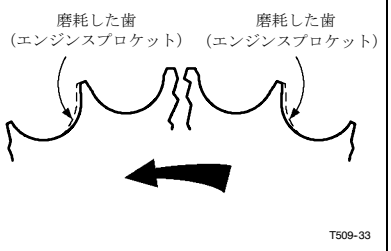
チェーンの磨耗点検



1. 20 環分を測定
2. おもり

- チェーンガードを取り外します。
- チェーンに10 - 20 kgのおもりを吊り下げて、チェーンを張ります。
- 1番目のピンの中心から21番目のピンの中心まで、20 環分のチェーンの直線部分の長さを測ってください。チェーンは不均等に磨耗していることがあるため、数カ所測定してください。
- 長さが使用限度である321 mmを超えていた場合、チェーンは交換しなければなりません。
- リアホイールを回転させ、ドライブチェーンのローラーに損傷がないか、ピンや環が緩んでいないか点検してください。

・ スプロケットカバーも取り外し、スプロケットの歯が不均等にまたは過度に磨耗していないか、傷んでいないか点検してください。



スプロケット摩耗を拡大して図示

・ 異常がある場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーにドライブチェーンとスプロケットを交換してもらってください。
・ チェーンガードとスプロケットカバーを再装備します。

⚠ 警告

認定されていないチェーンを使用すると、チェーンの破損やスプロケットから飛び出す原因となる場合があります。どちらの場合でも、リアホイールを動かなくし、モーターバイクに多大な損傷を与え、制御しきれなくなって事故を引き起こす可能性があります。

安全走行のために、Triumph パーツカタログの中で指定されている純正Triumph供給チェーンを使ってください。

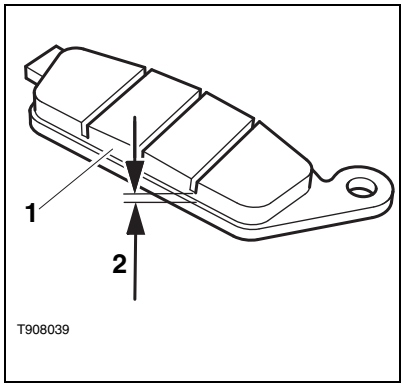
チェーンのメンテナンスは絶対に怠らないでください。取り付けは正規Triumphディーラーに実施してもらってください。

⚠ 注意

スプロケットの磨耗に気づいた時は必ず、スプロケットとドライブチェーンを一緒に交換してください。

チェーンも一緒に交換しないで、磨耗したスプロケットだけを交換すると、新しいスプロケットの耐久性を損なうことがあります。

ブレーキ



1. ライニングの厚さ
2. 1.5 mm 溝の厚さ

ブレーキパッドの磨耗点検

ブレーキパッドは、定期整備表に従って点検し、修理の限界まであるいは最低限度を超える薄さまで磨耗している時は、交換しなければなりません。

フロント又はリアブレーキのいずれかのパッドのライニング厚さが 1.5 mm 以下になっていたら、つまり、パッドが溝の底まで磨耗していたら、そのホイールのパッドを全部交換してください。

新ブレーキパッドと新ブレーキディスクのすり合わせ運転

新しいブレーキディスクやブレーキパッドをモーターサイクルに取り付けた後は、ディスクとパッドの性能を最適化し、耐用寿命が長くなるように、慎重に一定期間すり合わせ運転を行うことをお勧めします。新しいパッドとディスクのすり合わせ運転として、300 km ほど走行するのが理想です。

ブレーキディスクやブレーキパッドを新しくした後は、急ブレーキを避け、慎重な運転を心掛け、制動距離を長めにとってすり合わせ運転を行います。

⚠ 警告

ブレーキパッドは必ずホイール単位で交換しなければなりません。フロントの場合は、同じホイール上にキャリパーが２つ付いているので、両方のキャリパーのブレーキパッド全部を交換してください。

個別にパッドを交換すると、制動効率が低下することがあり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす恐れがあります。

交換用パッドを取り付けた直後は、新しいパッドが「なじむ」まで極めて慎重に運転してください。

ブレーキパッドの磨耗補整

ディスクとディスクパッドの磨耗は自動的に補整され、ブレーキレバーやペダルの働きに影響を及ぼすことはありません。フロントとリアブレーキに調整を必要とする部品はありません。

⚠ 警告

ブレーキレバーないしペダルを操作したときに軽すぎる、またはレバーやペダルのストロークが大きすぎると感じたら、ブレーキラインに空気が入っているか、ブレーキが故障している可能性があります。

このような状態でモーターバイクを運転するのは危険です。乗る前に、最寄りの正規Triumphディーラーで点検修理してもらわなくてはなりません。

ブレーキに欠陥のある状態で走行すると、バイクの制御性が損なわれ事故を招く恐れがあります。

ブレーキライトスイッチ

ブレーキライトは、フロント、リアの違いに関係なく、ブレーキをかければ点灯します。フロントブレーキレバーを引いた時、あるいはリアブレーキペダルを踏んだ時にブレーキライトが点灯しない場合は、最寄りの正規Triumphディーラーに点検と故障の修理を依頼してください。

⚠ 警告

ブレーキライトに欠陥がある状態でバイクを運転することは、違法であり危険です。

ブレーキライトが故障しているモーターバイクを運転すると、ライダー自身や他の道路利用者までも巻き込む人身事故を起こしかねません。

ブレーキフルード

両方のリザーバのブレーキフルードレベルを点検し、定期整備表に従ってブレーキフルードを交換してください。フロントにはDOT 4フルードしか使わないでください。

リアには、Scrambler を除くすべてのモデルで、DOT 3 または DOT 4 仕様のフルードを使用できます。

Scrambler には、必ず DOT 4 仕様のオイルを使用してください。ブレーキフルードに水分やその他の異物が混入したり、混入した疑いのある場合は、ブレーキフルードを交換しなければなりません。

⚠ 警告

どちらかのリザーバのブレーキフルードが汚染した、あるいは汚染の疑いがある場合は、走行前に、最寄りの正規Triumphディーラーに相談しアドバイスを受けてください。汚染したブレーキフルードを使い続けると、ブレーキの故障の原因となる恐れがあります。ブレーキに欠陥のある状態で走行すると、バイクの制御性が損なわれ事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

どちらかのブレーキフルードリザーバの液面レベルが著しく低下していた場合は、走行前に、最寄りの正規Triumphディーラーにご相談ください。ブレーキフルードレベルが減損している、あるいはブレーキフルードが漏れている状態で走行するのは危険であり、ブレーキ性能を低下させてモーターバイクを制御不能に陥らせ、事故を引き起こす恐れがあります。

⚠ 警告

ブレーキ液には吸湿性があり、大気中の水分を吸収することがあります。

吸収された水分は、ブレーキフルードの沸点を大幅に下げ、ブレーキの制動効率低減の原因となることがあります。

ですから、定期整備表の指示に従って、必ずブレーキフルードを交換してください。

必ず、封がされた容器の新しいブレーキフルードを使用し、封がされていなかったり、既に開けられていた容器からのフルードを使用してはなりません。

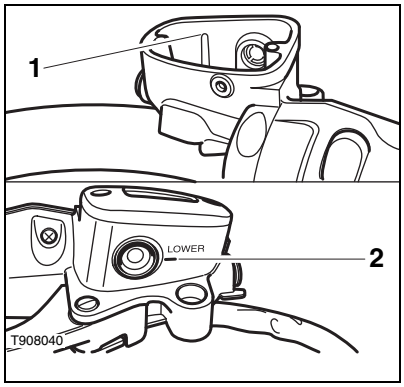
ブランドや等級の異なるブレーキフルードを混ぜないでください。

ブレーキの付属器具、シール、ジョイントの周囲にブレーキフルードの漏れがないか点検し、ブレーキホースに亀裂、劣化、損傷がないかも調べてください。

故障があれば、必ず走行前に直してください。

欠陥を見落としたり適切に対処しなかった場合、モーターバイクのコントロールが失われて事故につながるような、危険な走行状態に陥る可能性があります。

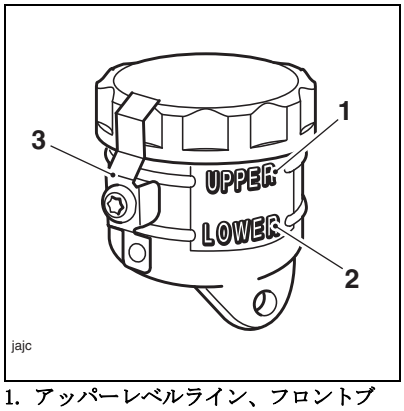
フロントブレーキフルードレベルの点検と調整 - Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション、ならびに Thruxton



1. アッパーレベルライン、フロントブレーキ
2. ロワーレベルライン、フロントブレーキ

- フロントフルードレベルを点検するには、リザーバボディーの前面に付いている窓から見える液面レベルを調べます。
- ブレーキフルードレベルは、アッパーとロワーの間にあることが必要です（リザーバは水平の状態であること）。
- フルードレベルを調整するには、キャップのねじをゆるめ、シーリングダイアフラムの位置を書きとめて、カバーを取り外します。
- 密閉容器に入っていた新しい DOT 4 フルードを、上限ラインに達するまでタンクに補充してください。
- ダイアフラムシールがキャップとタンクボディーの間に適切に置かれていることを確かめながら、カバーを再度取り付けます。
- キャップの留めねじを締めます。

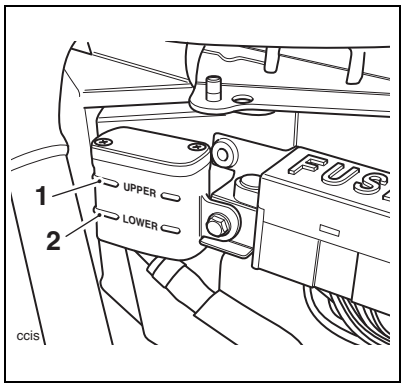
フロントブレーキフルードレベルの点検と調整− Bonneville、Bonneville SE、Scrambler



1. アッパーレベルライン、フロントブレーキ
2. ロワーレベルライン、フロントブレーキ
3. 安全クリップ

- リザーバ内のブレーキフルードレベルは、アッパーとロワーの間にあることが必要です（リザーバは水平の状態であること）。
- 安全クリップを取り外します。
- リザーバキャップを取り外してください。
- 密閉容器に入っていた新しいDOT 4 フルードを、上限ラインに達するまでタンクに補充してください。
- ダイアフラムシールが正しく取り付けられていることを確認し、リザーバキャップを取り付けます。
- 安全クリップを取り付けます。

リアブレーキフルードレベルの点検と調整 - Bonneville、Bonneville SE、Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション、ならびに Thruxton

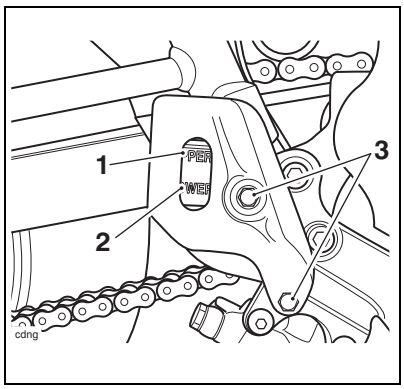


1. アッパーレベル（上限）、リアブレーキ
2. ロアーレベル（下限）、リアブレーキ

- リアブレーキフルードのレベルを点検するには、一般データの章に記載されている要領で、右サイドカバーを取り外してください。
- リアリザーバ内のブレーキフルードのレベルは、上限と下限を示す線の間に保たれなくてはなりません。
- フルードレベルを調整するには、連結ホースを取り外ずさないで、エアボックスからリザーバを離します。
- キャップのねじをゆるめ、シーリングダイアフラムの位置に注意しながら、カバーを取り外します。

- 密閉容器に入っていた新しいDOT 3 又はDOT 4 フルードを、上限ラインまでリザーバに補充してください。
- ダイアフラムシールがキャップとリザーバボディーの間に正しく置かれていることを確かめながら、リザーバキャップを取り付けます。キャップの留めねじを締めます。
- オリジナルの固定具を締めつけてエアボックスにリザーバを取り付けます。
- 右サイドカバーを再装備します。

リアブレーキフルードレベルの点検と調整－ Scrambler



1. アッパーレベル（上限）、リアブレーキ
2. ロアーレベル（下限）、リアブレーキ
3. リザーバカバーの固定具

- リアブレーキのフルードレベルは、リザーバやカバーを取り外さなくても右側から見ることができます。
- モーターバイクを真っ直ぐに立てた状態で見て、リアリザーバ内のブレーキフルードのレベルは、上限と下限を示す線の間に保たれなくてはなりません。
- リアブレーキフルードレベルを調整するには、リザーバカバーをフレームに固定している固定具を外してリザーバカバーを引き離してください。
- 内側のダイヤフラムの位置を書きとめ、キャップを取り外します。

- モーターバイクを垂直に立てた状態で、密閉容器の DOT 4 フルードをリザーバにの上限ラインまで補充してください。
- ダイアフラムシールがキャップとリザーバボディーの間に正しく置かれていることを確かめながら、リザーバキャップを取り付けます。
- リザーバカバーをフレームに合わせ、前に取り外した 2 個の固定具で固定します。固定具を **7 Nm** で締めつけます。

ステアリング / ホイールベアリング

ステアリングの点検

定期整備表に従って、ヘッドストック（ステアリング）ベアリングの状態の点検と潤滑油の注油を行なってください。

注記：

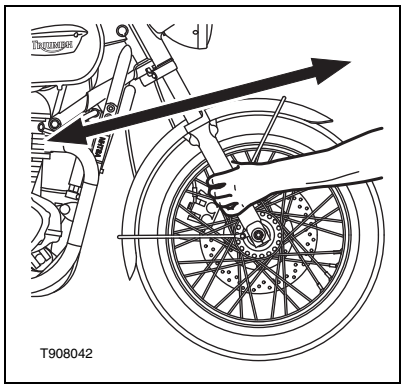
- **ステアリングベアリングの点検を行う際は必ず、同時にホイールベアリングも点検してください。**

⚠ 警告

点検中にモーターバイクが倒れて怪我をすることのないように、モーターバイクがしっかりと支えの上に固定されていることを確認してください。

各ホイールに過度の力を加えたり、激しく揺すったりしないでください。モーターバイクが不安定な状態になったり、あるいは支えから落ちて怪我のもととなる恐れがあるからです。

支えブロックの位置に注意し、オイルラインやサンプの下のオイルフィルターが損傷を受けることのないようにしてください。



ステアリングの遊びの点検

点検

- モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。
- フロントホイールを地面から浮かせます。
- フロントフォークの下端を持ち、それを前後に動かしてみます。
- 走行前に遊びを感じたら、点検と故障の修理を最寄りの正規Triumph ディーラーに依頼してください。

⚠ 警告

調整が不適切だったりステアリングベアリングに欠陥がある状態で運転すると、モーターバイクの制御性が損なわれて事故を引き起こす恐れがあります。

- 支えを取り外し、モーターバイクをサイドスタンドで駐車します。

ホイールベアリングの点検

フロントやリアホイールのホイールベアリングとホイールハブとの間に遊びがあり、ノイズが発生したり、ホイールがスムーズに回転したりしない場合は、最寄りの正規Triumphディーラーにホイールベアリングを点検してもらってください。

ホイールベアリングは、定期整備表の中で指定されている間隔で、点検しなければなりません。

- モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。
- フロントホイールを地面から浮かせます。
- フロントホイールの上端を左右に静かにゆすってみます。
- 走行前に遊びを感じたら、点検と故障の修理を最寄りの正規Triumph ディーラーに依頼してください。
- 持ち上げ器具を動かし、リアホイールも同様に点検します。

⚠ 警告

磨耗したあるいは損傷を受けたホイールベアリングを付けたまま運転すると、モーターバイクの操縦性と安定性が損なわれ、制御不能になって事故を起こしかねません。不審な点がある場合、走行前に正規Triumphディーラーにモーターバイクを点検してもらってください。

- 支えを取り外し、モーターバイクをサイドスタンドで駐車します。

フロントサスペンション

フロントフォークの点検

- 各フォークスタンションに損傷の兆候がないか、スライダー表面に傷がないか、オイル漏れがないかを調べます。
- 損傷や漏れが見つかった場合は、正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

フォークがスムーズに作動するかを点検するには：

- モーターバイクを平らな地面に置きます。
- ハンドルを握ってフロントブレーキをかけながら、フォークを数回上下に動かしてください。

注記：

- **動きが滑らかでなく、過度な硬さが感じられる場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーにご相談ください。**

⚠ 警告

損傷や欠陥のあるサスペンションの付いたモーターバイクを運転すると、バイクに損傷を与え、バイクを制御しきれなくなって事故を起こすことがあります。

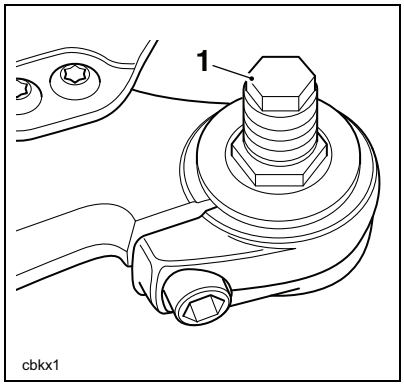
サスペンションの設定

Thruxton 以外のすべてのモデルには、調整ができないタイプのフロントサスペンションが取り付けられています。調整可能なフロントサスペンションを採用しているのは、Thruxton だけです。

⚠ 警告

サスペンションユニットは、どの部分であっても絶対に分解しないでください。すべてのユニットには、加圧オイルが入っています。加圧オイルに触れると、皮膚や目を傷める恐れがあります。

フロントサスペンションの調整



1. フロントサスペンションプリロードアジャスター－ Thruxton のみ

スプリングプリロードを変える場合、プリロードを大きくするにはアジャスタを時計回り（ねじ込む）に、プリロードを小さくするには反時計回り（ネジをゆるめる方向）に回します。必ず、両方のフォーク上に見える目盛り線が同数になるように、プリロードアジャスターを設定してください。

それぞれの目盛り線は、フォークキャップの上部表面と並ぶように設定する必要があります。

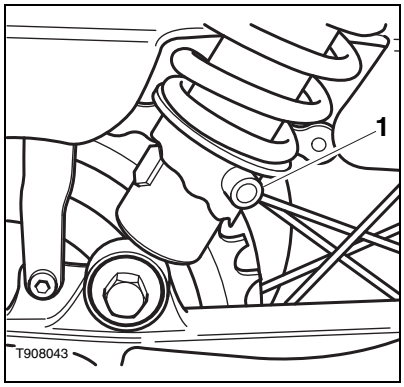
⚠ 警告

アジャスターは両方のフロントサスペンションユニット上の設定値が同じになるよう設定されていることを確認します。左右の設定が異なると、操作性と安定性が損なわれてモータバイクは制御不能に陥り、事故に帰する恐れがあります。

注記：

- **本モーターバイクは、スプリングプリロードアジャスターを見える目盛り線で４に設定した状態で工場を出荷されます。**

リアサスペンションの調整



1. リアサスペンションプリロードアジャスター－全モデル

標準的なリアサスペンションプリロード設定にすると、一般的な単独走行において、優れた乗り心地と良好なハンドリング特性が得られます。次ページの表は、異なるロード条件のもとでのリアサスペンションプリロード設定の目安を示したものです。

リアサスペンションのスプリングプリロードの設定値を変えるには、アジャスターリングに付いている穴に適したツールを差し込んでください。

スプリングプリロードを大きくするにはアジャスターリングを時計回りに回し、小さくするには反時計回りに回します。

⚠ 警告

アジャスターは両方のリアサスペンションユニット上の設定値が同じになるよう設定されていることを確認します。左右の設定が異なると、操作性と安定性が損なわれてモータバイクは制御不能に陥り、事故に帰する恐れがあります。

目安となるサスペンション設定値

フロントアジャスター設定値は、露出している目盛り線の数を指しています。アジャスターポジションは合計 7 つあります。1 に設定すると、スプリングプリロードは最大になります。

リアアジャスター設定値は、アジャスターを反時計回りに完全に回し切ったところをポジション 1 とし、1 から数えます。アジャスターポジションは合計 5 つあります。ポジション 1 に設定すると、スプリングプリロードは最小になります。

⚠ 警告

フロントとリアサスペンションの間に適当なバランスが保たれていることを確認してください。サスペンションの不均衡は、操縦特性に著しい変化をもたらす可能性があり、バイクを制御しきれなくなって事故を起こす場合があります。詳しいことは表を参照するか、最寄りのTriumphディーラーに聞いてください。

Bonneville T100、Bonneville 110 周年エディション、Thruxton、Scrambler

積載状態	フロントアジャスターポジション*	リアアジャスターポジション
単独走行－軟らかめ	6	1
単独走行－標準	4	2
単独走行－硬め	2	3
ライダーと同乗者	2	5

* Thruxton のみ

Steve McQueen™ エディション

積載状態	リアアジャスター位置
単独走行－軟らかめ	1
単独走行－標準	2
単独走行－硬め	3

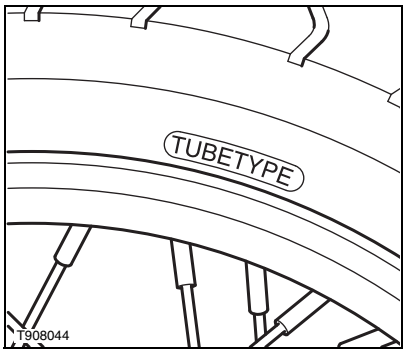
Bonneville および Bonneville SE

積載状態	リアアジャスターポジション
単独走行－標準	1
単独走行－硬め	3
ライダーと同乗者	5

注記：

- **本表に記載されている数値は、ライダーと同乗者の体重が、それぞれ 90 kg またはそれ以下と仮定しての目安に過ぎません。設定条件は、運転者と同乗者の体重や好みによって増えることになるでしょう。**

タイヤ



典型的なタイヤマーク

Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション、ならびに Thruxton、Scrambler には、スポークホイールが取り付けられており、インナーチューブを使用するタイヤを装着する必要があります。

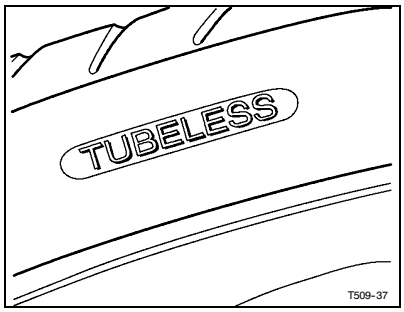
⚠ 警告

スポーク付きホイールでインナーチューブを装着しなかった場合、タイヤの空気圧が下がり、コントロールが失われて、事故につながる恐れがあります。

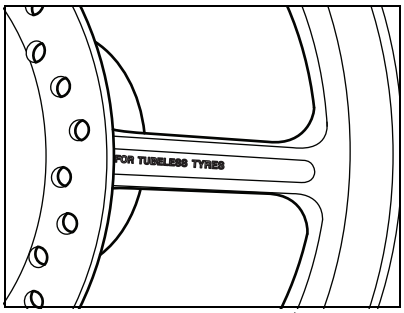
BonnevilleとBonneville SEモデルとも、チューブレスタイヤ、バルブ、ホイールリムを装備しています。「TUBELESS（チューブレス）」のマークのついたタイヤと、リムに「SUITABLE FOR TUBELESS TYRES（チューブレスタイヤに適合）」のマークのついたチューブレスバルブのみを使用してください。

⚠ 警告

チューブレスリムにチューブタイプのタイヤを取り付けないでください。ビードが定着せず、タイヤがリムの上でスリップする可能性があり、タイヤの収縮が早まってコントロール不能に陥り、事故に帰する恐れがあります。チューブレスタイヤの内側にインナーチューブを入れてはなりません。そのようなことをすると、タイヤの内部で摩擦が生じ、熱が発生してチューブが破裂し、急速にタイヤが収縮して、バイクのコントロールが失われ事故を起こす恐れがあります。



典型的なタイヤマークーチューブレスタイヤ



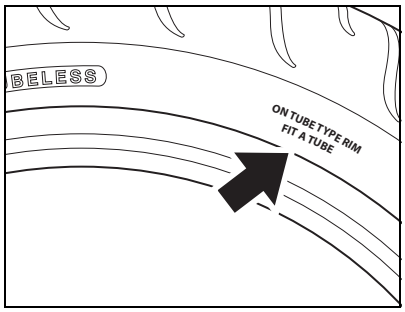
ホイールマークーチューブレスホイール

⚠ 警告

インナーチューブは、スポーク付きホイールと「TUBE TYPE（チューブタイプ）」のマーク付きタイヤを装着したモーターバイクだけに使用する必要があります。

「TUBELESS（チューブレス）」というマークの付いた認定タイヤでも、ブランドによっては、インナーチューブを入れて使うのに適している場合があります。このような場合、タイヤウォールには、インナーチューブの取り付けを許可するという文言が印されています（下図を参照）。

「TUBELESS（チューブレス）」のマーク付きタイヤや、インナーチューブの使用に適合というマークの付いていないタイヤにインナーチューブを使ったり、「SUITABLE FOR TUBELESS TYRES（チューブレスタイヤに適合）」のマーク付き合金ホイールにインナーチューブを使用したりすると、タイヤの凹みの原因となり、モーターバイクは制御不能に陥って事故を招く危険があります。



典型的なタイヤマーク－インナーチューブに適したチューブレスタイヤ

タイヤ空気圧

適正なタイヤ空気圧は、最大限の安定性と快適な乗り心地をもたらし、タイヤの寿命を延ばします。タイヤ空気圧の点検は、必ず走行前のタイヤが冷えている時に行なってください。タイヤ空気圧は毎日点検し、必要に応じて調整してください（適当な空気圧に関しては仕様の章を参照してください）。あるいは、最寄りの正規Triumphディーラーで、ホイールとタイヤを点検してもらってください。

⚠ 警告

タイヤの空気圧が適当でないと、トレッドが異常に磨耗して不安定さが問題となり、制御不能に陥って事故につながる危険があります。

空気圧が低すぎると、タイヤがスリップしたり、リムから外れる結果になりかねません。空気圧が高すぎると不安定な状態になり、トレッドの磨耗を早めることがあります。

どちらの状態も危険です。バイクが制御不能に陥って事故を引き起こす危険があるからです。

タイヤの磨耗

トレッドが磨耗してくるにつれ、タイヤはパンクしやすくなります。タイヤの問題の90%は、トレッドの寿命が尽きる前の10%（90%磨耗）の期間に発生していると推定されます。したがって、トレッドの許容深度ギリギリまでタイヤを使用しないでください。

トレッドの推奨最小深度

定期整備表に従って、デプスゲージでトレッドの深さを測り、トレッドの深さが下の表に記されている許容最小限度を超えて磨耗しているタイヤはすべて交換してください。

130 km/h 以下	2 mm
130 km/h 以上	リア 3 mm フロント 2 mm

⚠ 警告

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

⚠ 警告

本 Triumph モーターバイクの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、あるいはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

⚠ 警告

過度に磨耗したタイヤで走行することは危険であり、トラクション、安定性、操縦性に悪影響を及ぼします。そのため、制御性が損なわれて事故につながる恐れがあります。

タイヤがパンクした場合、空気は極めてゆっくり漏れるのが普通です。パンクしていないか、常に念入りに調べてください。タイヤに切り傷がないか、釘や尖ったものが刺さっていないか調べてください。パンクあるいは損傷しているタイヤを付けて運転すると、安定性と操縦性に悪影響を及ぼし、そのため制御性が損なわれて事故につながる恐れがあります。

リムにへこみや変形がないか、スポークにゆるみや損傷がないかを点検してください。損傷や欠陥のあるホイール、スポーク、タイヤを付けての運転は危険であり、制御性が損なわれて事故に至る可能性があります。

タイヤの交換やホイール、スポーク、タイヤの安全点検については、必ず正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

タイヤの交換

⚠ 警告

インナーチューブは、スポーク付きホイールと「TUBE TYPE(チューブタイプ)」のマーク付きタイヤを装着したモーターバイクだけに使用する必要があります。

「TUBELESS (チューブレス)」というマーク付きのタイヤや合金ホイールと共にインナーチューブを使用すると、バイクの制御性が損なわれ事故を起こす場合があります。

⚠ 警告

チューブレスリムにチューブタイプのタイヤを取り付けないでください。ビードが定着せず、タイヤがリムの上でスリップする可能性があり、タイヤの収縮が早まってコントロール不能に陥り、事故に帰する恐れがあります。チューブレスタイヤの内側にインナーチューブを入れてはなりません。そのようなことをすると、タイヤの内部で摩擦が生じ、熱が発生してチューブが破裂し、急速にタイヤが収縮して、バイクのコントロールが失われ事故を起こす恐れがあります。

注記：

- **「TUBELESS (チューブレス)」というマークの付いた認定タイヤでも、ブランドによっては、インナーチューブを入れて使うのに適している場合があります。このような場合、タイヤウォールには、インナーチューブの取り付けを許可するという文言が刻まれているでしょう。**

Triumph 製のモーターバイクはすべて、モデル毎に最適なタイヤを組み合わせるために、様々な走行条件で厳密にテストされています。交換用タイヤを購入する際は、認可されている組み合わせで取り付けられている認可タイヤとインナーチューブ (取り付けてある場合) を選ぶことが極めて大切です。認可されていないタイヤとインナーチューブを使ったり、あるいは、認可タイヤとインナーチューブを認可されていない組み合わせで使うと、バイクは不安定になり、制御しきれなくなって事故を招く恐れがあります。認可タイヤとインナーチューブの組み合わせの詳細については、仕様の章を参照してください。タイヤとインナーチューブの取り付けとバランス調整は、必ず、安全で効果的な取り付けを保証するために必要なトレーニングを受け技術を修得した正規 Triumph ディーラーに依頼してください。

⚠ 警告

パンクしているタイヤ又はインナーチューブは交換しなくてはなりません。パンクしたタイヤやインナーチューブを交換しないまま、あるいは修理したタイヤやインナーチューブを装着しての走行は、バイクを不安定にし、制御不能に陥らせて事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

縁石にぶつかった後などでタイヤやインナーチューブに損傷の疑いがある場合は、正規 Triumph ディーラーにタイヤの内側と外側の両方の点検とインナーチューブの点検もしてもらってください。タイヤの損傷は、必ずしも外側からは見えないことに留意してください。損傷したタイヤを付けたままでモーターバイクを運転すると、制御性が損なわれて事故を招く場合があります。

⚠ 警告

タイヤやインナーチューブの交換が必要な時は、正規 Triumph ディーラーに相談してください。認可リストの中から正しい組み合わせのタイヤとインナーチューブを選択し、タイヤとインナーチューブのメーカーの指示に従って取り付けを行なう手筈を整えるでしょう。

タイヤとインナーチューブを交換した後、それぞれがリムに落ちつくまでに時間が掛かります(約 24 時間)。落ち着くまでの間は慎重に運転してください。タイヤとインナーチューブがきちっとはまっていないと、バイクは不安定になり、制御しきれなくなって事故を招く恐れがあります。

新しいタイヤとインナーチューブは最初の内は摩耗したタイヤとインナーチューブとは異なった反応をします。ライダーは、新しいハンドリング特性に慣れるために、十分な距離（約 160 キロ）を走行しなくてはなりません。

取り付けてから 24 時間後に、タイヤ圧を調べて調整し、タイヤとインナーチューブが正しくはめ込まれているか点検しなくてはなりません。必要に応じて修正してください。

取り付け後 160 キロ走行した時点で、同様の点検と調整を行なう必要があります。

不適切に装着されたタイヤやインナーチューブを付けたままで、またはタイヤ空気圧の調整が不適切な状態で、あるいはハンドリング特性になじんでいない時にモーターバイクを運転すると、バイクを制御しきれなくなって事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ローリングロードダイナモメーター上で使用されてきたタイヤとインナーチューブは、損傷を受けている危険があります。タイヤは、外観を見ただけでは損傷が分からないことがあります。

そのような使い方をした後のタイヤとインナーチューブは交換しなければなりません。損傷のあるタイヤやインナーチューブを使い続けると不安定になり、バイクを制御しきれなくなって事故を招く危険があるからです。

⚠ 警告

モータバイクの安全で安定した操縦には、精確なホイールバランスが欠かせません。ホイールバランスウェイトを取り外したり、変えたりしないでください。ホイールバランスが適切でなければ、不安定な状態に陥り、制御不能に陥って事故を起こしかねません。

ホイールバランスの調整が必要な時は、例えばタイヤとインナーチューブを交換した後など、正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

自動接着性のウェイト以外は使わないでください。クリップ留めウエイトは、ホイール、タイヤ、インナーチューブを損傷してタイヤの空気圧を低下させ、バイクを制御不能に陥らせて事故を招く恐れがあります。

バッテリー

⚠ 警告

バッテリーは引火性のガスを発生させる時があります；火花、炎、タバコなどは絶対に近づけないでください。閉め切った場所でバッテリーを充電したり使用する場合は、十分な換気を行なってください。

バッテリーには硫酸（バッテリー液）が入っています。皮膚や目に付着するとひどい火傷をする恐れがあります。防護服とフェースマスクを着用してください。

バッテリー液が皮膚についたら、直ちに水で洗ってください。

バッテリー液が目に入った場合、最低でも 15 分間水で洗い、医者の治療を受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合、大量の水を飲み、医者の治療を受けてください。

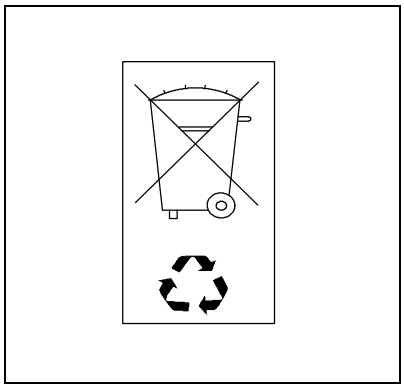
バッテリー液は子どもの手の届かない所に置いてください。

⚠ 警告

バッテリーには有毒物質が含まれています。バッテリーは、モーターバイクに取り付けられていてもいなくても、子供の手の届かない所に置いてください。

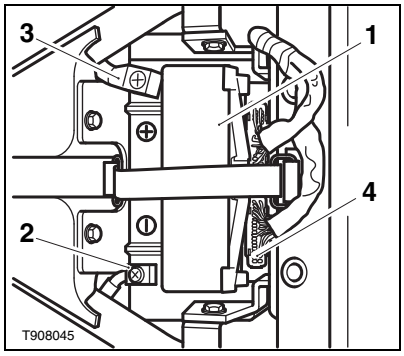
バッテリーをジャンプスタートさせたり、バッテリーケーブルを互いに接触させたり、ケーブルの両極を逆にしたりしないでください。火花が出てバッテリーのガスを発火させ、人身事故のリスクを高める恐れがあります。

バッテリーの処分



万一バッテリー交換が必要になった場合、古いバッテリーは回収業者に引き渡す必要があります。バッテリー製造に使用されている有害物質が環境を汚染することのないように処分してくれます。

バッテリーの取り外し



1. バッテリー
2. マイナス（−）端子
3. プラス（+）端子
4. エンジン制御モジュール（ECM）

- 一般データの章に記載されている要領でシートを外します。
- 最初にマイナス(黒)の方からバッテリーのリード線を外します。
- バッテリーストラップを外します。
- バッテリーをケースから出してください。

注記：

- **エンジン制御モジュール（ECM）はバッテリートレイの後方に付いており、バッテリーによってモーターバイクに固定されています。バッテリーの取り外し、取り付け作業中に、ECM に支障をきたしていないことを確認してください。**

⚠ 警告

バッテリーの端子が、どの部分であろうとモーターバイクに触れないように気をつけてください。ショートを起こしたり火花が出てバッテリーのガスに引火し、人身事故やモーターバイクの損傷の原因となる恐れがあります。

バッテリーの整備

乾いたきれいな布でバッテリーの汚れを落としてください。リード線の接続部も必ずきれいにしてください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があって有毒であり、露わになっている皮膚を損ないます。絶対にバッテリー液を飲み込んだり、皮膚につけたりしないでください。バッテリーを扱う時は、目や皮膚を傷めないように、必ず防具類を身につけてください。

本バッテリーは密閉タイプですから整備の必要はなく、保管中に電圧チェックや定期的な充電が必要なだけです。

バッテリーの液量を調整することはできないので、シールストリップを取り外さないでください。

バッテリの放電

⚠ 注意

バッテリー充電レベルの管理は、バッテリー寿命を最大限に延ばすために必要です。

バッテリーの充電レベルを適正に維持しないと、バッテリー内部に重大な損傷を生じるおそれがあります。

通常の使用状態では、モーターバイクの充電システムは完全な充電状態を保ちます。しかし、モーターバイクに長い間乗っていないと、自己放電という自然作用によりバッテリーは次第に放電してしまいます。時計、エンジン制御モジュール（ECM）メモリー、高い周囲温度、または電気を消費する付属品やアクセサリーの追加などのため、バッテリーの放電が早まります。モーターバイクからバッテリーを外しておけば、放電を遅くすることができます。

モータバイクから外してあるバッテリー、あまり乗らないモータバイクのバッテリーの放電

モータバイクから外してあるバッテリー、あまり乗らないモータバイクのバッテリーの場合、デジタルマルチメーターで毎週電圧を測ってください。メーターに同梱されているメーカーの指示書に従ってください。バッテリー電圧が 12.7 V 以下になったら、バッテリーを充電してください（*99*ページを参照）。

バッテリーの放電を防がなかったり、たとえ僅かな時間でも放電したままに放置すると、鉛電極板に硫酸化を発生します。硫酸化はバッテリー内部で生じる正常な化学反応ですが、長い期間続くと電極板に結晶を生じ、回復が困難になったり、不可能

になります。このような永久的な損傷は、製造上の欠陥ではないので、モーターバイクの保証ではカバーされておりません。

バッテリーを常にフルに充電しておくと、寒冷時に凍結しにくくなります。バッテリーが凍結すると、バッテリー内部に重大な損傷を生じます。

バッテリーの充電

バッテリー充電器の選択、バッテリー電圧のチェックまたはバッテリーの充電に関する詳しいことは、貴地の Triumph ディーラーにご連絡ください。

⚠ 警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します；火花や火炎、タバコを近づけないでください。閉め切った場所でバッテリーを充電したり使用する場合は、十分な換気を行なってください。

バッテリーには硫酸（バッテリー液）が入っています。皮膚や目に付着するとひどい火傷をする恐れがあります。防護服とフェースマスクを着用してください。

バッテリー液が皮膚についたら、直ちに水で洗ってください。

バッテリー液が目に入った場合、最低でも 15 分間水で洗い、医者の治療を受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合、大量の水を飲み、医者の治療を受けてください。

バッテリー液は子どもの手の届かない所に置いてください。

⚠ 注意

充電過剰になってバッテリーを損なうので、自動クイックチャージャーを使用しないでください。

バッテリー電圧が 12.7V 以下になったら、バッテリーは Triumph が承認するバッテリー充電器で充電してください。モータバイクから必ずバッテリーを取り外し、バッテリーチャージャーに同梱されていたマニュアルにしたがってください。

長期（2 週間以上）に亘りモーターバイクを保管するときは、バッテリーを取り外し、Triumph が承認する整備用の充電器を使用して常に充電した状態に保ってください。

同様に、バッテリーがモーターバイクを始動できないところまで放電しているときは、バッテリーを取り外してから充電してください。

バッテリーの取り付け

⚠ 警告

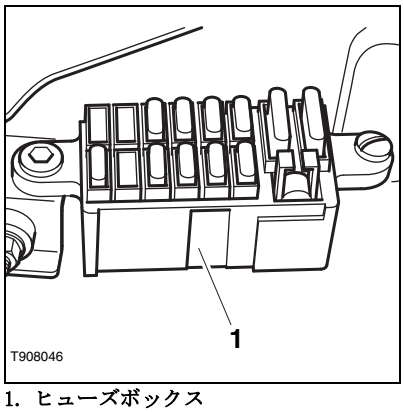
バッテリーの端子が、どの部分であろうとモーターバイクに触れないように気をつけてください。ショートを起こしたり火花が出てバッテリーのガスに引火し、人身事故やモーターバイクの損傷の原因となる恐れがあります。

- エンジン制御モジュール（ECM）とそのカバーが、バッテリーの陰に適切に設置されていることを確認ししてください。
- バッテリーをバッテリーケースに入れます。
- 最初にプラス（赤）のリード線からバッテリーに再接続
- 腐食を防ぐために、端子にグリースを薄く塗ってください。
- プラスの端子に保護キャップをかぶせます。
- バッテリーストラップを再び取り付けます。
- 一般データの章に記載されている要領でシートを再装備します。

ヒューズ

ヒューズの位置

ヒューズは、右サイドカバーの後ろのヒューズボックス内に分類して保管されています。



1. ヒューズボックス

ヒューズの交換

運転中にヒューズが切れた場合は、電装系統を点検して原因を見つけてから、同じ（正しい）定格電流の新しいヒューズに代えてください。

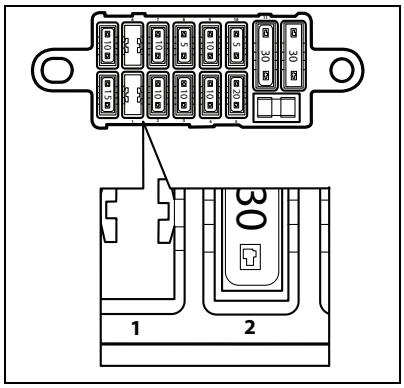
⚠ 警告

切れたヒューズは必ず正しい定格電流（ヒューズボックスのカバーに明記されている）のヒューズで付け替え、絶対に定格が上のヒューズは使わないでください。

正しくない定格のヒューズを使用すると、電装系統のトラブルの元となってバイクに損傷を与え、バイクを制御不能に陥らせて事故に帰する場合があります。

ヒューズの識別

ヒューズは、下図のように、各ヒューズに隣接したヒューズボックスハウジングに付いている番号によって識別できます。これらの番号は次ページの表に記載されている番号に対応しています。識別番号の付いていないヒューズはスペアで、使った後は補充しなくてはなりません。



ヒューズの識別

切れているヒューズは、そのヒューズで保護されているシステムのすべてが作動不能となるため、識別できます。どのヒューズが切れたかを調べる時は、以下の表を参考にしてください。

ヒューズ番号	保護回路	ヒューズ定格（アンペア）
1	不使用	-
2	アラーム、診断ツールコネクター	10
3	アクセサリーソケット、GPS	10
4	不使用	-
5	エンジン管理システム	20
6	イグニッションスイッチ主要給電 、計器照明	10
7	方向インジケーター、ブレーキライト、ホーン	10
8	ポジションライト	5
9	ディプ / メインビーム	10
10	ポジションライト	5
11	主要バッテリーヒューズ	30

注記：

- **ヒューズボックスには、30、20、10 アンペアのスペアヒューズしか入っていません。5 アンペアのスペアヒューズも入れておく必要があるでしょう。**

ヘッドライト

⚠ 警告

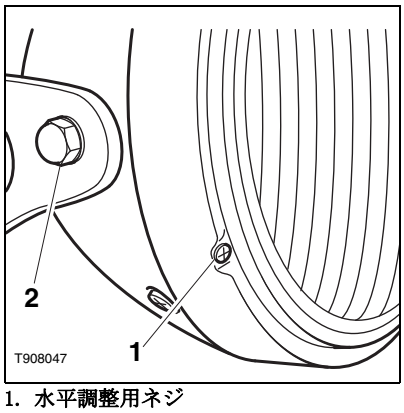
走行速度は、モーターバイクが走行している時の視界や気象条件に適した速度に調節してください。

対向車の運転手の目を眩ませることなく、前方を十分遠くまで照らせるようにビームを調整してください。ヘッドライトの調整が適切でないと、視界が悪くなり、コントロールを失って、事故を招く危険があります。

⚠ 警告

モーターバイクが走行中は、絶対にヘッドライトビームの調整を試みないでください。

走行中にヘッドライトビームを調整しようとすると、バイクの制御性が損なわれて事故に帰する恐れがあります。



1. 水平調整用ネジ
2. 上下方向調整用固定具

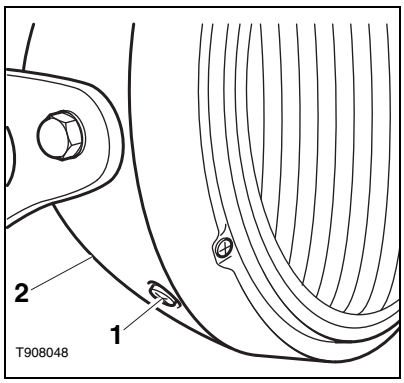
ヘッドライトの調整

- ヘッドライトビームの左右方向の調整は、ヘッドライトのリムに付いているねじで行ないます。ビームを左に向けるには調整用ねじを時計回りに、ビームを右に向けるにはねじを反時計回りに回してください。
- ビームの上下方向の調整は、ヘッドライトアセンブリーの取り付けボルトを緩めたり、ヘッドライトアッセンブリーの位置を変えることによって行ないます。
- 調整後、固定具を再び締めてください。

注記：

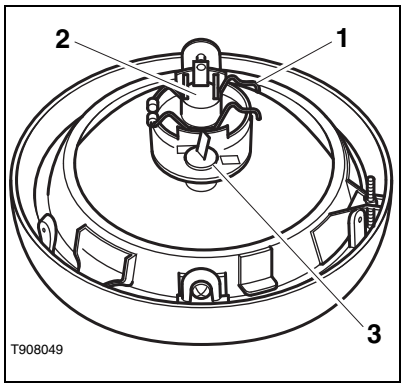
- **水平方向のアジャスターに加えられた変更は、ヘッドランプビームの水平方向の設定をわずかに変えることがあります。必ず、これを補整するための追加の変更の必要性を見込んでください。**

ヘッドライト／ポジションライトのバルブの交換



1. ヘッドライトリムネジ（2個の内の1個）
2. ヘッドライトボール

- 最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。
- ヘッドライトリムのねじを外します。
- ヘッドライトボールからヘッドライトとリムアセンブリーを外します。
- ライトユニットを支えながら、ヘッドライトバルブからマルチピン電気コネクターを、ポジションライトから2個のスペードコネクターを外します。
- ゴム製のダストカバーを外します。
- ヘッドライトバルブのワイヤリテイナーのフックを外します。
- これでヘッドライトバルブが取り外せます。
- ポジションライトバルブを取り外すには、ヘッドライトボディーからバルブホルダーを離し、バルブを取り外します。
- 取り付けは、取り外しと逆の手順で行ないます。



1. ワイヤリテイナー
2. ヘッドライト電球
3. ポジションライト

⚠ 警告

組立作業が完了するまで、バッテリーを再接続しないでください。作業の途中で再接続すると、バッテリーガスに引火して負傷事故をもたらしかねません。

⚠ 警告

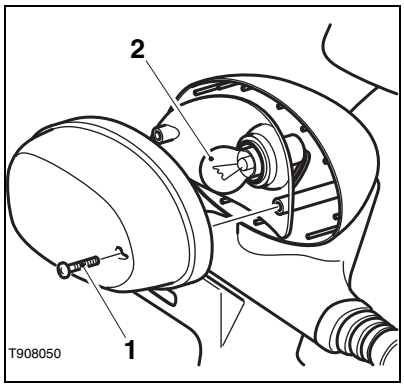
使用中、バルブは熱くなります。必ず、電球が冷えるまで十分時間をかけてから、扱ってください。

⚠ 注意

バッテリーへの再接続は、プラス（赤）のリード線から行なってください。

リアライト／ライセンスプレートライト

リアライト

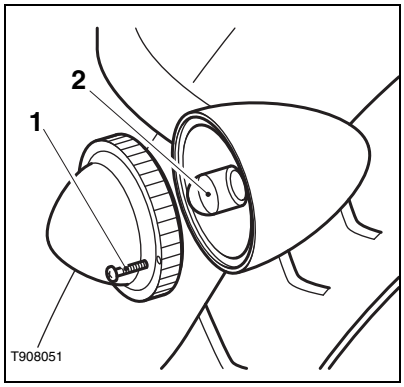


1. リアライトレンズネジ
2. 電球

バルブの交換

- リヤライトレンズを固定しているねじを外します。
- レンズを取り外します。
- このバルブはバイオネットタイプです。取り外すには、そっと押し込んで、反時計回りにねじってください。
- 取り付けは、取り外しと逆の手順で行ないます。

方向指示灯



1. インジケーターレンズのネジ
2. 電球

バルブの交換

- 各インジケーターライトのレンズは、ねじで所定の場所に留めてあります。
- ネジをゆるめレンズを取り外すと、バルブ交換作業ができます。

洗車

定期的な洗車は、お持ちのモーターバイクの整備に欠かすことのできないものです。定期的に洗車すると、長年にわたって新車のような外観が保たれます。自動車用の洗剤を溶かした水で洗車することは、いつの場合にも大切ですが、海風や海水にさらされた後や、埃っぽい道やぬかるんだ道、冬場の融雪剤をまいた路面を走行した後は、殊に大切です。家庭用洗剤は使わないでください。その種の製品は、腐食を早めることがあるからです。

お持ちのモーターバイクの保証書の条件に基づき、特定の部品の腐食は保証の対象となっていますが、オーナーもモーターバイクを腐食から守り、外観を向上させる手段となる、本章の注意を守るようにしてください。

洗車の準備

洗車を行なう前に、下記の部分を濡らさないよう予防策を講ずる必要があります。

- 排気管の後部開口部：ビニール袋で覆い、ゴムバンドで動かないようにします。
- クラッチとブレーキレバー、ハンドル上のスイッチハウジング：ビニール袋で覆います。
- イグニッションスイッチ / ステアリングロック： キーホールをテープで覆います。

指輪、時計、ジッパー、ベルトのバックルのような装飾品は取り外します。塗装面や磨き上げられた面にひっかき傷をつけたり、損傷を与える恐れがあります。

塗装された/磨き上げられた表面とシャーシ付近の洗浄には、別のスポンジまたは洗い布を使ってください。シャーシ付近（ホイールやマッドガードの下）は、ざらざら

した道路のほこりやちりにまみれるので、その部分の洗浄に使われたスポンジや洗い布を使うと、塗装してある、あるいは磨き上げられた表面にひっかき傷をつける恐れがあります。

注意すべき部分

下記のところには、勢いよく水を吹きつけないようにしてください：

- 計器類
- ブレーキシリンダーとブレーキキャリパー
- 燃料タンクの下
- ドライブチェーンとヘッドストックベアリング。

⚠ 注意

左側サイドパネルの後部などに水をかけないでください。エンジンの吸気ダクトがサイドパネル左側にあるため、この付近に水を吹きかけるとエアボックスとエンジンに入り込んで、両方に損傷を与える恐れがあります。

⚠ 注意

高圧スプレー洗車機の使用はお勧めできません。高圧洗車機使うと、噴射された水がベアリングなどの部品内に浸入し、腐食や潤滑油の損失が原因で磨耗を早めます。

注記：

- **アルカリ性の強い洗剤を使うと、塗装された表面に残留物が残り、しみになりかねません。洗車プロセスの助けとなるように、必ず弱アルカリ性の洗剤を使ってください。**

洗車後

- ゴムバンド、ビニール袋、テープを取り外し、吸気口もきれいにします。
- ピボット、ボルト、ナット類に注油します。
- モーターバイクを運転する前にブレーキテストをします。
- エンジンを始動させ、5 分間回転させます。排気ガスがこもらないよう換気を良くしてください。
- 乾いた布で、残った水分を拭き取ります。腐食につながりますので、マシンに水分がついたままにしないでください。

⚠ 警告

ブレーキディスクには、絶対にワックスや潤滑油を施さないでください。制動力が低下し、事故に帰する恐れがあります。ディスクを拭く時は、オイルを含まないブレーキディスク専用クリーナーを使ってください。

シートケア

⚠ 注意

化学薬品や高圧スプレー洗浄機でシートをクリーニングすることはお勧めしません。化学薬品や高圧スプレー洗浄機を使用すると、シートカバーを傷める可能性があります。

シートを美しく保つためには、スポンジかクリーニング用の布に石鹸水を含ませて、シートの汚れを落とします。

塗装されていないアルミニウム部品

- 一部モデルのブレーキレバー、クラッチレバー、ホイール、エンジンカバー、トップヨーク、ボトムヨーク等は、その外観を保つために正しい方法で清掃を行わなければなりません。ご所有のモーターサイクルで、どれが未塗装のアルミニウム部品か分からない場合は、正規販売店にお問い合わせください。
- アルミニウム専用クリーナーを使用してください。
- アルミニウム製部品は定期的に汚れを落としてください。特に悪天候の中を走行した後は、必ず各部品を手洗いして乾燥させてください。
- Thruxton と Scrambler だけは、特に念入りな手入れを必要とします。シリンダーヘッドフィンの機械加工されたエッジは、走行する度に必ず汚れを落とし乾かしてください。
- 整備が不十分な場合は、保証の対象となりませんのでご注意ください。

排気装置の清掃

外観が損なわれないようにするために、モーターバイクの排気装置の部品は全て定期的にクリーニングする必要があります。同じことが、クロームメッキを施し磨いたステンレススチールとカーボンファイバー製の部品に対しても言えます。

注記：

- **水滴の跡が残らないよう、排気装置は十分冷えるのを待って洗浄しなくてはなりません。**

洗浄

- 水に低刺激の自動車用洗剤を混ぜたものを用意します。一般に洗車場などで見られるアルカリ性の強い洗剤は使用しないでください。残留物が残るからです。
- 柔らかい布で、排気装置の水分を完全に拭き取ります。研磨パッドやスチールウールは使用しないでください。仕上げを損なうことがあります。
- 排気装置を徹底的にすすいでください。
- 排気管に石鹸水や水が入らないようにしてください。

乾燥

- 柔らかい布で、排気装置の水分を完全に拭き取ります。エンジンをかけて乾燥させないでください。水滴の跡が残ります。

保護

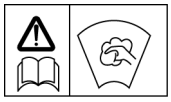
- 排気装置が乾いたら、「Motorex 645 Clean and Protect 」を表面にすり込みます。

⚠ 注意

シリコンを含む製品を使うとクロムの変色を招くことがありますので、使わないでください。同様に、研磨剤入り洗剤や光沢剤を使うと、システムを損傷することがあるので使わないでください。

- 排気装置には保護剤を定期的に塗ることをお勧めします。装置の外観を保護し、きれいに保てます。

アクセサリフロントガラスの清掃



ウィンドスクリーンは、弱性石鹸か洗剤の溶液とぬるま湯で汚れを落としてください。洗浄後はよくすすぎ、柔らかく糸くずの出ない布で拭いてください。

⚠ 注意

ウィンドウの洗浄液、昆虫除去剤、撥水剤、研磨剤、ガソリン、あるいはアルコール、アセトン、四塩化炭素などのような洗浄力の強い溶剤は、ウィンドスクリーンに損傷を与えます。絶対に、これらの製品をウィンドスクリーンに触れさせないでください。

除去できないひっかき傷や酸化により、ウィンドスクリーンの透明度が落ちてきた場合、ウィンドスクリーンは交換する必要があります。

⚠ 警告

モーターバイクが走行中にウィンドスクリーンの汚れを落とそうとしてはなりません。ハンドルから手を離すと車両は制御不能に陥って、事故を引き起こしかねないからです。

ウィンドスクリーンに損傷やひっかき傷のある状態でモーターバイクを運転すると、ライダーの視界が悪くなります。視界が悪いと危険であり、人身事故を引き起こしかねません。

⚠ 注意

バッテリー液などの腐食液はフロントガラスを損ないます。絶対に、腐食性化学物質をウィンドスクリーンに触れさせないでください。

このページは意図的に空白にしてあります

保管

保管前の準備

車体全体をくまなくきれいにします。

正しい等級の無鉛燃料を燃料タンクに給油し、燃料安定剤メーカーの指示に基づいて燃料安定剤があれば添加してください。

⚠ 警告

ガソリン（燃料）は非常に可燃性が高く、特定の条件下では爆発する可能性があります。したがって、イグニッションスイッチをオフにします。禁煙厳守。場所は換気が良く、火炎や火花の元となる物がないことを確認してください。たとえば、パイロットランプ付きの電気・ガス器具などです。

シリンダーからスパークプラグを外し、エンジンオイルをシリンダーごとに数滴（5 cc）垂らします。スパークプラグ孔を布切れでカバーします。エンジンのストップスイッチを RUN ポジションにした状態で、スターターボタンを数秒間押して、シリンダー壁にオイルを行き渡らせます。スパークプラグを取付け、**20 Nm** のトルクで締め付けます。

エンジンオイルとフィルターを交換します（ページ *67* 参照）。

点検を行い、タイヤ空気圧を規定値にします（ページ *120* 参照）。

両輪が地面から浮き上がるように、モーターバイクのスタンドを立てます。（これが無理なら、前輪と後輪の下に板を敷いて、タイヤを湿気から護ってください）

塗装されていない金属面に防錆油（市場には多くの製品が出回っているので、貴地の代理店に問い合わせてください）をスプレーします。ゴム製部品、ブレーキディスク、ブレーキキャリパーにオイルが付着しないようにしてください。

チェーンをチェックし、調整します（*75*ページを参照）。

バッテリーを取り外し、直射日光が当たらず、湿気のない、気温が氷点下にならない場所に保管してください。保管中のバッテリーは、隔週に一度のペースで緩速充電（1 アンペア以下）してください（ページ *96*参照）。

保管後の走行準備

バッテリーを再度取り付けます（ページ *96*参照）。

4ヶ月以上乗らなかったモータバイクの場合、エンジンオイルを交換してください（ページ *67* 参照）。

日常の安全点検項目をすべてチェックします（ページ *43* 参照）。

エンジンを始動する前に、シリンダーからスパークプラグをすべて取り外してください。

サイドスタンドを降ろします。

油圧警告ランプが消えるまで、スタータモーターでエンジンを数回回転させます。

スパークプラグを交換し**20 Nm**のトルクで締め付け、エンジンを始動させます。

点検を行い、タイヤ空気圧を規定値にします（ページ *120* 参照）。

ブレーキをチェックし、調整します。

低速でモーターバイクを試運転します。

保管

このページは意図的に空白にしてあります

仕様

	Bonneville と Bonneville SE	Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション
性能		
最大出力 (95/1/EC).	68 PS @ 7,400 rpm	68 PS @ 7,400 rpm
最大トルク.	68 Nm @ 5,800 rpm	68 Nm @ 5,800 rpm
寸法		
全長.	2,115 mm	2,230 mm
全幅.	790 mm	740 mm
全高.	1,130 mm	1,100 mm
輪間距離.	1,490 mm	1,500 mm
シート高.	740 mm	775 mm
乾燥重量.	225 kg	230 kg
最大車載重量. . . . . (ライダー、同乗者、アクセサリー)	200 kg	200 kg
エンジン		
タイプ.	空冷直列２気筒 360° 度の点火角度	空冷直列２気筒 270° 度の点火角度
排気量.	865 cc	865 cc
ボア x ストローク.	90 x 68 mm	90 x 68 mm
圧縮比.	10.2:1	10.2:1
シリンダナンバー.	左から右へ	左から右へ

仕様

	Bonneville と Bonneville SE	Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション
順番.	1-2	1-2
点火順.	1-2	1-2
始動方式.	電動スターター	電動スターター
潤滑		
潤滑装置.	強制潤滑 （ウエットサンプ方式）	強制潤滑 （ウエットサンプ方式）
エンジンオイル容量ガイドライン		
（ドライフィル）.	4.5 リッター	4.5 リッター
（オイルおよびフィルタ交換）. . . .	3.8 リッター	3.8 リッター
（オイルチェンジのみ）.	3.3 リッター	3.3 リッター

注記： サイトグラスマークで常にオイルレベルが正しいか調べてください。

	Thruxton	Scrambler
性能		
最大出力 (95/1/EC).	69 PS @ 7,400 rpm	59 PS @ 6,800 rpm
最大トルク.	69 Nm @ 5,800 rpm	68 Nm @ 4,750 rpm
寸法		
全長.	2,150 mm	2,213 mm
全幅.	830 mm	860 mm
全高.	1,095 mm	1,202 mm
輪間距離.	1,490 mm	1,500 mm
シート高.	820 mm	825 mm
乾燥重量.	230 kg	230 kg
最大車載重量. . . . . (ライダー、同乗者、アクセサリー)	200 kg	200 kg
エンジン		
タイプ.	空冷直列２気筒 360° 度の点火角度	空冷直列２気筒 270° 度の点火角度
排気量.	865 cc	865 cc
ボア x ストローク.	90 x 68 mm	90 x 68 mm
圧縮比.	10.2:1	9.2:1
シリンダナンバー.	左から右へ	左から右へ
順番.	1-2	1-2
点火順.	1-2	1-2
始動方式.	電動スターター	電動スターター

仕様

	Thruxton	Scrambler
潤滑		
潤滑装置.	強制潤滑 （ウエットサンプ方式)	強制潤滑 （ウエットサンプ方式)
エンジンオイル容量ガイドライン		
（ドライフィル）.	4.5 リッター	4.5 リッター
(オイルおよびフィルタ交換). . . .	3.8 リッター	3.8 リッター
（オイルチェンジのみ）.	3.3 リッター	3.3 リッター

注記： サイトグラスマークで常にオイルレベルが正しいか調べてください。

	全モデル
燃料システム	
タイプ.	シーケンシャル電子燃料噴射
燃料ポンプ.	サブマージ電動型
燃料圧.	3.0 バール
燃料	
タイプ.	無鉛（最低 91 RON）
タンク容量.	16 リッター
エミッションコントロール装置	
タイプ.	セカンダリーエアインジェクション付きのツイン酸化触媒および貴金属触媒
イグニッション	
点火方式.	デジタルエレクトロニック
スパークプラグ.	NGK DPR8EA-9
ギャップ.	0.8 - 0.9 mm

仕様

	Bonneville と Bonneville SE	Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション
トランスミッション		
トランスミッション.	5 速、常時噛合式	5 速、常時噛合式
クラッチ.	湿式多版	湿式多版
プライマリドライブ.	ギア	ギア
ファイナルドライブ.	チェーン DID 525 VM2 104 環エンドレス	チェーン DID 525 VM2 104 環エンドレス
プライマリドライブ比.	1.74:1 (62/108)	1.74:1 (62/108)
ファイナルドライブ比.	2.39:1 (18/43)	2.39:1 (18/43)
ギア比：		
1 速	2.73:1 (41/15)	2.73:1 (41/15)
2 速	1.95:1 (37/19)	1.95:1 (37/19)
3 速	1.55:1 (34/22)	1.55:1 (34/22)
4 速	1.29:1 (31/24)	1.29:1 (31/24)
5 速	1.07:1 (29/27)	1.07:1 (29/27)

	Thruxton	Scrambler
トランスミッション		
トランスミッション.	5速、常時噛合式	5速、常時噛合式
クラッチ.	湿式多版	湿式多版
プライマリドライブ.	ギア	ギア
ファイナルドライブ.	チェーンDID 525 VM2 106環エンドレス	チェーンDID 525 VM2 104環エンドレス
プライマリドライブ比.	1.74:1 (62/108)	1.74:1 (62/108)
ファイナルドライブ比.	2.39:1 (18/43)	2.39:1 (18/43)
ギア比：		
1速.	2.73:1 (41/15)	2.73:1 (41/15)
2速.	1.95:1 (37/19)	1.95:1 (37/19)
3速.	1.55:1 (34/22)	1.55:1 (34/22)
4速.	1.29:1 (31/24)	1.29:1 (31/24)
5速.	1.07:1 (29/27)	1.07:1 (29/27)

仕様

	Bonneville と Bonneville SE	Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション
タイヤ		
タイヤ空気圧（冷寒時）		
フロント		
単独運転.	2.27 バール	2.27 バール
最大荷重.	2.27 バール	2.27 バール
リア		
単独運転.	2.82 バール	2.82 バール
最大荷重.	2.82 バール	2.82 バール
オプション 1		
フロント.	Metzeler ME Z4 110/70-17	Metzeler ME 33 Laser 100/90-19
リア.	Metzeler ME Z2 130/80-R17	Metzeler ME Z2 130/80-R17
オプション 2		
フロント.	該当なし	該当なし
リア.	該当なし	該当なし

⚠ 警告

必ず指定の組み合わせで、推奨タイヤオプションのみを使用してください。メーカーの異なるタイヤ、また同一メーカーでも仕様の異なるタイヤを混用しないでください。

	Thruxton	Scrambler
タイヤ		
タイヤ空気圧（冷寒時）		
フロント		
単独運転.	2.27 バール	2.07 バール
最大荷重.	2.27 バール	2.07 バール
リア		
単独運転.	2.82 バール	2.82 バール
最大荷重.	2.82 バール	2.82 バール
オプション 1		
フロント.	Metzeler ME33 100/90-18	Bridgestone TW101 100/90-19
リア.	Metzeler MEZ2 130/80-17	Bridgestone TW42 130/80-17

⚠ 警告

必ず指定の組み合わせで、推奨タイヤオプションのみを使用してください。メーカーの異なるタイヤ、また同一メーカーでも仕様の異なるタイヤを混用しないでください。

仕様

	Bonneville と Bonneville SE	Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション
電装品		
バッテリー.	12 V 10 Ah	12 V 10 Ah
オルタネーター.	23 A /2,000 rpm 25 A /6,000 rpm	23 A /2,000 rpm 25 A /6,000 rpm
ヘッドライト.	12 V 60/55 W ハロゲン H4	12 V 60/55 W ハロゲン H4
テール / ブレーキランプ.	12 V 5/21 W	12 V 5/21 W
方向指示ランプ.	12 V 10 W	12 V 10 W
フレーム		
すくい角.	27°	28°
トレール.	106 mm	110 mm
締付トルク		
オイルフィルター.	10 Nm	10 Nm
サンプドレンプラグ.	25 Nm	25 Nm
スパークプラグ.	20 Nm	20 Nm
スキッドプレート.	該当なし	18 Nm

	Bonneville と Bonneville SE	Bonneville T100 および同モデルの Steve McQueen™ エディションと Bonneville 110 周年エディション
フルードと潤滑剤		
エンジンオイル.	API SH （またはそれ以上）**および** JASO MA 仕様にかなった半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 10W/50 のモーターサイクル用エンジンオイル、例えば、国によっては Castrol Power RS Racing 4T 10W-40（完全合成）として販売されている、Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40（完全合成）。	
ブレーキおよびクラッチ液.	DOT 4 ブレーキクラッチフルード	
ベアリングおよびピボット.	NLGI 2 仕様を満たしたグリース	
ドライブチェーン.	O リングチェーンに適したチェーンスプレー	

仕様

	Thruxton	Scrambler
電装品		
バッテリー.	12 V 10 Ah	12 V 10 Ah
オルタネーター.	23 A @ 2,000 rpm 25 A @ 6,000 rpm	23 A @ 2,000 rpm 25 A @ 6,000 rpm
ヘッドライト.	12 V 60/55 W ハロゲン H4	12 V 60/55W ハロゲン H4
テール / ブレーキランプ.	12 V 5/21 W	12 V 5/21W
方向指示ランプ.	12 V 10 W	12 V 10W
フレーム		
すくい角.	27°	27.8°
トレール.	97 mm	105 mm
締付トルク		
オイルフィルター.	10 Nm	10 Nm
サンプドレンプラグ.	25 Nm	25 Nm
スパークプラグ.	20 Nm	20 Nm
フルードと潤滑剤		
エンジンオイル.	API SH （またはそれ以上）**および** JASO MA 仕様にかなった半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 10W/50 のモーターサイクル用エンジンオイル、例えば、国によっては Castrol Power RS Racing 4T 10W-40（完全合成）として販売されている、Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40（完全合成）。	
ブレーキおよびクラッチ液.	DOT 4 ブレーキクラッチフルード	
ベアリングおよびピボット.	NLGI 2 仕様を満たしたグリース	
ドライブチェーン.	O リングチェーンに適したチェーンスプレー	

索引（あいうえお順）

アクセサリーと積載条件 55
アクセサリフロントガラスの清掃 .. 109
安全運転 43
安全第一 5
　整備 / 装備 10
　駐車 9
　燃料と排気ガス 6
　ハンドルとフットレスト 9
　部品とアクセサリー 10
　ヘルメットと防護服 8
　モーターバイク 5
　ライディング 6
イグニッション 117
　スイッチ 30
　ステアリングロック 31
　ステアリングロックキー 31
エンジン
　エンジンストップスイッチ 32
　エンジンの始動 47
　エンジンの停止 46
　シリアル番号 21
エンジンオイル 66
　オイルの仕様と等級 69
　使用済エンジンオイルの処分 69
　レベルの点検 67
各部の名称
　Bonneville、Bonneville SE、
　Bonneville T100、
　Bonneville T100 Steve McQueen™
　エディション、Bonneville 110 周年
　エディション 14
ギア
　発車 / ギアチェンジ 48
クラッチ 73
　調整 74
　点検 73
計器類
　オドメーター /
　トリップメーター 26
　計器盤のレイアウト 25
　警告灯 28
　スピードメーター 26
　タコメーター 27
　時計 27
警告 1
　警告・注意・注記 1
　警告灯 28
　警告ラベルの位置 12
　情報 3
　整備 2
　取扱説明書 3
警告灯
　ニュートラル 28
　ハイビーム 28
　方向指示器 28
　油圧低下警告 29
警告ラベル 2
高速走行 53
サスペンション
　サスペンションの設定 87
　フロントサスペンションの
　調整 87
　フロントフォークの点検 87
　目安となる設定値 89
　リアサスペンションの調整 88
シート 40
車体識別番号（VIN） 21

索引（あいうえお順）

仕様 113
　イグニッション 117
　エミッションコントロール装置 117
　エンジン 113, 115
　締付トルク 122, 124
　潤滑 114, 116
　寸法 113, 115
　性能 113, 115
　タイヤ 121
　電装品 122, 124
　トランスミッション 118, 119
　燃料 117
　燃料システム 117
　フルードと潤滑剤 123, 124
　フレーム 122, 124
スタンド 41
ステアリング / ホイールベアリング
　ホイールベアリングの点検 86
スロットル
　スロットルグリップ 70
　調整 71
　点検 71
スロットルグリップ 70
洗車
　シートケア 107
　洗車後 106
　洗車の準備 105
　注意すべき部分 106
　塗装されていないアルミニウム部品 107
　排気装置 108
タイヤ 90
　タイヤ空気圧 92
　タイヤ空気圧 120
　タイヤ空気圧 121
　タイヤの交換 94
　タイヤの磨耗 92
　トレッドの推奨最小深度 93
駐車 52
定期整備 62
ドライブチェーン 75
　チェーンのたるみ 76
　チェーンの注油 75
　チェーンの磨耗点検 77
取扱説明書 41
慣らし運転 42
日常の安全点検 43
燃料 36
　燃料タンクへの給油 37
　燃料の等級 36
　燃料補給 36
　フューエルタンクキャップ 37
燃料タンクへの給油 37
バッテリー
　処分 97
　整備 98
　取り外し 97
ヒートシールド 35
左ハンドルスイッチ 33
　パスボタン 34
　ヘッドライトディップスイッチ 33
　ホーンボタン 34
　方向指示器スイッチ 33
ヒューズ
　ヒューズの位置 100
　ヒューズの交換 100
　ヒューズの識別 101

索引（あいうえお順）

部品の名称
Scrambler..... 18
Thruxton..... 16
ブレーキ
ブレーキ操作..... 49
ブレーキとクラッチレバーアジャスタ 34
ブレーキパッドの磨耗点検..... 79
ブレーキパッドの磨耗補整..... 80
ブレーキフルード..... 80
ブレーキライトスイッチ..... 80
フロントブレーキフルードレベル 82
リアブレーキフルードレベル 83, 84
フロントサスペンション..... 87
ヘッドライト..... 102, 103
調整 102
ポジションライトのバルブ交換..... 103
方向指示灯..... 105
バルブの交換 105
保管..... 111
保管後の走行準備 111
保管前の準備 111
右ハンドルスイッチ..... 32
エンジンストップスイッチ 32
スターターボタン 33
リアライト..... 104
バルブの交換 104

索引（あいうえお順）

このページは意図的に空白にしてあります